

Solemn Appeal

厳粛な訴え



エレン・G・ホワイト 著

Solemn Appeal

厳 肅 な 訴 え

E.G. ホワイト

目次

Contents

第1章 母親に対する訴え 1

早期愛着の危険	3
自制を教える	5
子供たちを墮落から守りなさい	8
少女の教育	10
世界規模の退化	12
食事と道徳性の関係	14
模範の力	15
確かな避難所	18
自滅とその刑罰	20
サタンの特別な働き	22
助けの源	24

第2章 感傷主義〔センチメンタリズム〕..... 28

女性の使命	31
災難の原因	32
キリストの模範	33
圧倒的習慣	34
夫婦間の過剰な行為	38
女性の尊厳を保つ	43

第3章 女性の慎ましさ 47

悪の徴候を避ける 50

慎ましい態度 51

第4章 破られた律法 55

第5章 結婚関係 58

不幸な結婚 60

人類が退化している原因 61

若い人は老いた人と結婚すべきではない 63

頻繁過ぎる出産の悲しい結末 64

子供の世話 65

健康的食事は不可欠 67

親の義務 68

すべてのことにおいて節制する 69

母親の務めは最小限に 71

過労の母親は人類の墮落を引き起こす 73

満足すること 74

過食によって苦しむ幼児 75

消化不良とその悪の結果 76

教育における誤り 79

子供の最初の教訓 80

家族の祭壇 81

子供たちの楽しみ 82

第1章 母親に対する訴え

この問題について母親たちにももの申すことをお詫びするものです。私も母親の一人として、一人で行う悪習〔性的墮落行為〕によって、現世と来世とを自ら台無しにしている子供たちや若者たちに、ただならぬ驚きを覚えるのです。この問題を、身体的、知的、また道徳的観点から綿密に調査してみましょう。

母親の皆さん、最初にこの悪習が身体の力に及ぼす結果を見てみましょう。あなたの大切な子供たちの健康美、耐久力が欠けているのが気になったことはないでしょうか。彼らの病気が進行し、あなたや医者もどうすればよいか分からなくなって、悲しくなったことはないでしょうか。頭痛や鼻水、めまいやいらいら、肩やわき腹の痛み、食欲不振、腰や四肢の痛み、不眠や夜の発熱、朝のけだるさや運動後の疲労困憊、といった様々な訴えをあなたは耳にします。健康美が損なわれていくのを目にし、青白い顔色または不自然に紅潮した顔に気付いたとき、奮い立って十分に水面下のものを見ようとし、この身体的な退化の原因を調べようとしたでしょうか。

また、あなたの子供たちの精神面で、ある欠陥があることに気付いたことはないでしょうか。極端な行為が目につき、ぼうっとしていて、話しかけられるとそわそわし出し、すぐにいらいらする、といった様子はなかったでしょうか。ある仕事に従事しているとき、あたかも心がどこか別の場所にあるかのように夢を見ている状態で、ふと我に返ると、自分の手作業が間違い

だらけで、不注意をあらわに示していることを認めたがらないのに、気が付いたことはないでしょうか。彼らが不思議なほど忘れっぽいのに、びっくりさせられたことはないでしょうか。最も単純で何度も繰り返された指示が、しばしば忘れ去られてしまいます。飲み込みは早いかもしれませんが、それが彼らにとって何ら特別な益とはなりません。それが頭に残らないのです。一生懸命勉強して学んだことが、いざその知識を用いようとすると、欠けていて、ざるのような記憶力のために失われてしまっているのです。彼らが活発な労働をいやがるのに気付いたことはありませんか。また、体力と知力を要するために、自ら引き受けた仕事を忍耐強く成し遂げる意志がないことに気付いたことはありませんか。彼らの多くの傾向が、怠惰に生きることなのです。

表情が陰気でも悲しく、かつては快活で優しく愛情深かった顔が、しばしば不機嫌になりかんしゃくを起こすのを目撃したことはありませんか。彼らは容易にやきもちを焼き、物事を悪い方に受け止めがちで、彼らによかれと思ってしていることが悪意に取られ、あなたが不必要に彼らを譴責し、拘束していると思われるのです。

またあなたの子供たちを道徳的観点から見るときに、これがすべてどのような結末を迎えるのだろうかと思ねたことはありませんか。子供たちがどんどん言うことを聞かなくなり、感謝の気持ちがなく、束縛されることに我慢ができないのに気付いたことはありませんか。彼らが親の権威を無視するのにびっくりさせられたことはありませんか。そのために落ち込み、白髪が増えてきてはいませんか。かつては屈託なく何でも話し、非常に感心していたのに、それがなくなってきたはいませんか。ある子供たちはその表情に、根強い墮落の跡さえも現しています。子供たちが異性と一緒にいることを強く望み、かなり幼い

頃からそのような傾向が強力に形成されているのを見て、懸念を覚えたことはありませんか。あなたの娘さんたちの間では、男の子のことが話題の中心であり、息子さんたちの間では、女の子のことが話題の中心となってきました。彼らは特定の相手を好み、あなたが助言や警告を与えてもほとんど変わりません。盲目的熱情は、分別のある配慮を追いやります。また、たとえ外見の現れを防ぎ、改めるという約束を信用したとしても、悲しいことに全く変化は見られず、変化があったとしても、それはただ問題をあなたの目から隠すためなのです。尚も秘密に愛着を持ち、こそこそと会っているのです。彼らは自分勝手な道を歩み、情欲に支配され、ついにあなたは彼らの早婚にびっくりさせられるか、高潔な振る舞いによってあなたに敬意を表すべき者たちによって恥をかかされるのです。早婚の事例は増加する一方です。少年少女が未熟な愛情と判断力をもって、更に高潔かつ高尚な感情はないまま結婚関係に入り、全く幼い激情のままに自らに結婚の誓約を課すのです。赤ん坊の時から彼らを見守り世話をしてきた母親の知識も持たずに、彼らはしばしば自ら親になることを選ぶのです。

早期愛着の危険

幼年期に形作られた愛着が、しばしば非常に不幸な結合、またはみっともない離別という結果に及んできました。両親の同意なしになされるならば、年若くして結ばれる男女はほとんど幸福になりません。若年の愛情は、ある時期まで抑制されるべきです。それは、十分な年齢に達し、経験を積んで立派になり、安全に彼らの束縛を解くことができる時までです。抑制されることのない者たちは、不幸な生活を長引かせる危険に陥ること

でしょう。十代の若者は、自分と同じくらい若い人物を、生涯の伴侶にふさわしいと決断するのに十分な判断力を持ち合わせていません。彼らの判断力がもっと発達した後で、生涯を共にするのにふさわしい相手としてお互いを見るようになるまでは、恐らくお互いを幸せにしようなどという考えは全くないのです。それから、巡り合わせを最善のものにする代わりに、非難の応酬が起こって溝が深まり、ついにはお互いに対して常に無関心、無思慮になるのです。彼らにとって、家庭という言葉は全く神聖なものではありません。愛のない言葉と辛辣な非難によって、雰囲気そのものが毒されます。このような者たちの子供は、彼らの両親よりも更に好ましくない状態に置かれます。このような境遇があり、このような模範がいて、時がたてばたつほど彼らに何を期待することができるでしょう。

母親の皆さん、これらの肉体的、知的、道徳的害悪の元凶が密かな悪習であり、それが情欲を燃え上がらせ、想像力をかき立て、不品行や姦淫へと導くのであります。この悪習が非常に多くの人の体質を荒廃させ、彼らをほとんどあらゆる種類の病気に備えさせているのです。そうであるなら、自らを滅ぼす道に子供たちを行かせて良いでしょうか。

母親の皆さん、あなたの子供たちを宗教の視点からご覧なさい。あなたの子供たちが身体と知性において軟弱なのを見るのは辛いことですが、彼らが霊的な事柄に対して死んだも同然で、善や品性の美、神聖な目的を望む気持ちがほとんどないのを見るのは、更に嘆かわしいのではないのでしょうか。密かな悪習は、良い宗教的品性を形作るための不屈の精神、まじめな努力と意志力を破壊するものです。クリスチャンであることについての真実な自覚をいくらかでも持っている人なら、キリストに従う者は、弟子たちのように、彼らのすべての情感、すべての体力と知力をキリストの御旨に完全に従わせる義務があることを

知っています。自らの情欲に支配されている者たちは、キリストの追従者となることができません。彼らは自分たちのあるじ、すなわちあらゆる悪の創始者の務めに没頭しすぎているため、墮落した習慣を離れ、キリストの任務を選ぶことができないのです。

信心深い母親たちなら、最も深い関心をもってこう尋ねることでしょう。私の子供たちは、現世におけるいかなる責任のある地位にも彼らをふさわしくない者とする習慣を続けるだろうか？彼らは悪魔的情欲のために、外見の美しさや健康や知性、天国の希望、また現世においても来世においても所有する価値のあるものを、ことごとく犠牲にするのだろうか？そうならないように神が導いて下さり、私たちにとってかけがえのない子供たちが、警告の声に耳を傾け、純潔と聖潔の道を選びますように。

自制を教える

子供たちが非常に幼い頃から、彼らに自制を教え、彼らの意志を私たちの意志に従わせるという教訓を教えるのは、どれほど重要なことでありましょう。もし彼らが、不幸にも悪い結果に至ることを知らずに誤った習慣を覚えてしまったなら、理性に訴えて彼らを改革し、そのような習慣は体質を破壊し、知性を冒すのだと説得することができます。目覚めさせられた恐怖心を鎮めて、尚もこの致命的な習慣にふけるよう導くために、墮落した人たちがどのような説得を試みよう、またどのような仮面をかぶっていようと、彼らの正体は敵であり悪魔の手下であることを、私たちは彼らに説明すべきです。美德と純潔は

高価なものです。これらの尊い特質は、天に起源を置くものです。これらの特質は神を私たちの友とし、私たちを神の御座にしつかりと結びつけるのです。

サタンが青年たちの心を支配しているので、彼らを救うために、私たちは決然とし、忠実に働かなければなりません。非常に幼い子供たちがこの悪習にはまり、時がたつにつれてそれはますます助長されて強力になり、肉体と知性のあらゆる高貴な能力が低下させられるまでになります。もしも、この習慣が健康に及ぼす影響について注意深く教えられていたなら、多くの子供たちが救われていたでしょう。自分で多くの苦しみを自らにもたらししていたという事実について、彼らは無知であったのです。この悪習にはまっている子供たちは、まるで悪魔の魔法にかかっているようで、ついには彼らの忌むべき知識を他の者たちに伝え、この習慣を非常に幼い子供たちにまで教えるのです。

母親の皆さん、あなたの子供たちが下品な習慣を覚えるのを防ぐことにおいて、注意深すぎるということはありません。彼らを悪から守る方が、それを覚えてしまったから自分で絶つよりも、たやすいことなのです。近所の人たちは、彼らの子供たちがあなたの家に来て、あなたの子供たちの部屋に一泊することを許可するかもしれません。これはあなたにとって、どちらを選択するかを試練となります。隣人の感情を害する危険を冒してまで彼らの子供たちをうちに帰すか、それとも彼らをあなたの子供たちと泊ませ、こうして、子供たちにとって一生涯の呪いとなる知識が教えられる機会に彼らをさらしてまで隣人を喜ばせるか、であります。

私の子供たちを腐敗から救うために、彼らが他の男の子と同じベッドでも、同じ部屋でも寝るのを許したことはなく、旅行

中にそうせざるを得ない状況が生じたときには、彼らを他の子供たちと一緒に泊ませるよりは、床に一人ずつしか入れないふとんを敷いて寝かせました。私は子供たちが、乱暴で品の悪い少年たちとつき合わないよう努め、家庭において快活に喜んで仕事ができるよう、彼らを誘導してきました。頭を常に働かせ、手を動かすことによって、彼らは、街路で他の男の子たちと一緒に遊び、街路教育を受ける時間もそのような気持ちも、ほとんど持つことはありませんでした。

九歳の頃に起こった不幸な出来事が、私の健康を台無しにしました。私はこれを大災難と見なし、そのためにつぶやきました。数年たってから、私はその事件について、だいぶ違った見方をするようになっていました。その頃には、それを祝福として見ることができました。現在でも、そのように見なしています。病気の故に、私は社会から隔離され、まさに知らぬが仏でしたが、若者たちの密かな悪習を覚えることはありませんでした。母親になった後で、数人の女性が病床で個人的にうち明けてくれたので、その時初めて、そのような悪習の存在を知った次第です。彼女たちは、自らの身体を破滅に陥れてしまっていたのです。しかし、この悪習がどれほど大きなものであるのか、またそれが健康にどのような害を及ぼすかについて正しい概念を持ったのは、まだまだ先のことでした。

思春期に入る前に、若者たちは、かなり度を超えてこの悪習にふけります。その頃は、体質に悪影響が出るのを、さほど経験することはありません。ところが、大人の男女へと成長していくこの大事な時期になって、自然の法則が以前破られたことを、彼らに感じさせるのです。

娘がだらだらしていて元気がなく、ほとんど活気もなく、容易にいらいらし、突然話しかけられると落ち着きがなくなるの

を母親が見ると、驚きを覚え、自分の娘はまともな大人の女性に成長しないのではないかと恐れるのです。可能な限り、娘を活発な労働から免れさせ、心配して医者にご相談します。徹底的に調べることも、疑わない母親に、病気のおおよその原因を暗示することもなく、医者は処方箋を出してやります。多くの場合、密かな放縦が、若者の体調が優れない唯一真の原因なのです。この悪習は活力を荒廃させ、身体を衰弱させています。そしてついに、結果を生み出した習慣を断ち切っても、完全に回復することはあり得なくなるのです。若者を健康的な労働から免れさせるのは、親が取り得る最悪の方法であります。そうすると、彼らの人生には目的がなくなり、頭や手を忙しく動かすこともなく、想像力は活発になり、不純で不健康な思いにふけるままに放置されるのです。このような状態では、あらゆる体調異常のおおもとである悪習に、もっと自由にふけるようになるのです。

子供たちを墮落から守りなさい

母親の皆さん、子供たちの習慣についてあなたが無知であり続けることをよしとするのは、事実上の犯罪です。彼らが純潔であるならば、その状態を保ちなさい。彼らの若い心の防備を固め、この健康と魂を破壊する悪習を嫌悪するよう、彼らを備えなさい。忠実な母親として、彼らがすべての若者仲間との交わりによって汚されることから彼らを保護しなさい。彼らを尊い宝として、この世代の腐敗的影響から守りなさい。もし若者同士の交際を思ったように抑えることができない状況に置かれたなら、あなたの目の届くところで、彼らにあなたの子供たちを訪問させなさい。お互い同士で、同じベッドや同じ部屋にさ

え泊まることを決して許してはいけません。悪を予防することは、それが行われた後で治療するよりもはるかにたやすいことなのです。

もしあなたの子供たちがこの悪習に関わっているとしたら、あなたを欺こうと嘘に頼る危険があります。しかし母親の皆さん、簡単に安心させられ、調査を打ち切ってはいけません。十分に満足がいくまで、問題をうやむやにしておいてはいけません。あなたの愛する者たちの健康と魂が危険にさらされている訳ですから、この問題は最重要事項なのです。巧みに言い逃れて隠そうという試みにもめげず、断固として油断することなく、厳しく取り調べるならば、たいてい事の真相が明らかになることでしょう。それから母親は、彼らに対して忠実にこの問題を提示し、それが人をどれほど堕落させるかを示すべきです。この種の罪は自尊心と品性の気高さを打ち壊し、健康と道徳を損なうようになり、その汚れたしみが、魂から神への真実な愛と聖潔の美を拭い去るであろうと説きながら、彼らの説得に努めなさい。悪習が根絶されたという十分な証拠を得るまで、母親はこの問題をとことん追究すべきであります。

この危険な年齢にある子供たちを訓練するほとんどの母親が、有害な手段を講じています。そのようなやり方では、彼らの破壊をより確かなものにするだけです。ある母親たちは、自らの手で扉を開き、悪魔を招き入れています。つまり、娘たちを怠惰にさせておくか、少しましな場合でも、編み物や刺繍をして過ごさせ、お手伝いさんを雇って子供たちのやるべき事柄をさせることによってであります。彼女たちが友達を訪問して、自分たちの交友関係を築くようにさせ、家から離れ、親の目を離れたところで何でも好き勝手なことをさせるのです。このような機会をサタンはことごとく活用し、無知な母親によって彼の巧妙な罠にさらされたこれらの子供たちの心を取りこにするの

です。この手段が、比較的安全であった三十年前に講じられていたからといって、現在それが安全であり得る証拠とはなりません。過去によって現在を判断することはできないのです。

少女の教育

母親たちは自分の娘たちを台所へ連れて行き、彼女たちに、料理の徹底教育を施すべきです。また、基本的な裁縫技術も教えるべきです。布地を経済的に裁断し、それらを手際よく縫い合わせる方法を教えるべきです。ある母親たちは、これを面倒くさがって、未経験な娘たちを忍耐強く教育するよりは、全部自分でやる方がましだと考えます。しかしそうすることによって、極めて重要な教育部門を怠り、子供たちに対して大きな悪を行うことになるのです。なぜなら後になって、娘たちの無知の故に、恥を被ることになるからです。

母親たちは、自分の娘たちに生命の法則を教え込むべきです。自らの身体の仕組み、また飲食や日常の習慣が健康と健全な体質に及ぼす影響について理解させるべきです。この理解がなければ、科学は何の益もない、ということ。

母親の働きと協力すれば、娘たちの手伝いは、しばしば台所の使用人が不要になるほどの大きな違いをもたらすことでしょう。彼女たちに労働する余地を与えて、社会に通用する者とする、それは出費の節約になるだけでなく、子供たちにとっても絶え間ない利益となります。そして、母親の直接の影響下で、自らの手に委ねられた大切な子供たちを忍耐強く教育することは、母親の義務なのです。また、雇われた少女が家庭に持ち込むかもしれない多くの悪に対して、扉を閉ざすことにもなるで

しょう。数日の内に、そのお手伝いさんは子供たちの上に強い影響力を発揮し、欺瞞と悪習に至るための手ほどきをするかもしれません。

子供たちは、幼年期の頃から役に立ち、両親の重荷を負担することを教えられるべきです。こうすることによって彼らは、疲労困憊した母親の心配を軽くすることで、大きな祝福となることができるのです。子供たちが労働に忙しくしている間は、時間が彼らの手に重くのしかかることはなくなり、無分別でおしゃべりで、不似合いの仲間たちと交わる機会も少なくなります。彼らとの邪悪な交際は、無邪気な少女の気品を墮落させることによって、彼女の一生を台無しにするかもしれません。

活動的な仕事は、サタンの誘惑を招く時間をほとんど与えないでしょう。しばしばへとへとになるでしょうが、決して害にはなりません。自然の法則が破られていなければ、彼らの眠っている間に、自然が活力と体力を回復してくれます。そして疲れ切った人は、密かな放縦への傾向が少ないのです。

娘のことについて、母親たちは欺かれることを自らに許しています。労働をさせて、だらだらしていてもやる気がないように見えると、甘い母親は娘たちを酷使しすぎたのではないかと恐れ、今後は彼女たちの仕事を軽くしてやろうと決め込みます。娘たちがこなすべき余分の仕事量を、母親が負担するのです。もしも多くの場合の実態を知ったら、困難の原因は労働ではなく、活力を衰弱させていた悪習が原因であり、それが彼女たちに脱力感と大きな衰弱をもたらしていたことが分かるでしょう。このような場合に、母親が娘たちを激しい労働から軽減してあげたら、それによって事実上彼女たちを怠惰の世界に引き渡すことになり、情欲の祭壇で焼き尽くされるためのエネルギーを蓄えさせることになるのです。わざわざ障害物を取り除いてあ

げて、誤った道に突っ走る自由を精神に与えるのです。その道において、彼女たちはより確実に自己破壊の働きを続けることでしょう。

世界規模の退化

私たちの世界の状態は、驚くべきものです。どこを見ても、至る所に精神薄弱、発育不全、四肢の障害、頭部の奇形、またあらゆる種類の身体障害が見られます。罪悪と犯罪、また自然の法則の違反が、人類の災難や苦痛がこのように積み重なった原因です。現在生きている若者の大部分が、無価値な者になりさがっています。腐敗した習慣が彼らのエネルギーをすり減らし、忌まわしく複雑な病気をもたらしているのです。疑うことを知らない両親は、次から次へと医者腕を試すでしょう。医者たちは、損なわれた健康の真の原因をだいたい分かっているが、怒らせることと儲けを失うことを恐れて薬を処方します。誠実な医者として真の原因を暴くべきときに、彼らは沈黙を守るのです。彼らの薬品は、虐待された自然に第二の大きな重荷を加えるだけです。自然はその重荷とも闘わなければならず、この闘いで、しばしば自然は奮闘中につぶれてしまい、犠牲者は死んでしまうのです。友人たちはその死を、神秘的な神の摂理と見なしますが、最も神秘的なのは、自然がその法則への違反に対して、あれほどまでに持ちこたえたことです。健康、理性、そして生命が、腐敗した情欲の犠牲となったのです。

思春期の前か、成人する直前の期間に自己放縦にふける子供たちは、自然の法則をその重大な期間に破った報いを受けなければなりません。多くの者が若くして墓に下る一方で、この苦

境を切り抜けるのに十分な体力を持ち合わせている者もいます。それが十五歳から続けられたとしたら、自然が自ら受けた虐待に対して抗議し、彼らにその法則への違反に対する報いを受けさせることでしょう。特に三十五歳から四十五歳までの間に、肝臓や肺の疾患、神経痛、リウマチ、背骨の疾患、腎臓病、癌に冒された体液などによる、体内の数々の痛みや様々な病気に苦しむことになるでしょう。いくつかの精巧な自然の機械装置が音をあげてしまい、残った器官に余計な負担がかかることになります。それはつまり、自然の精巧な秩序が乱れることであり、しばしば体質が突如として崩壊し、死に至ることがあります。

母親の皆さん、あなたの子供たちにやるべき事を十分に与えなさい。彼らがへとへとになっても、それで健康が害されることはありません。疲労と疲弊との間には、大きな違いがあります。知、徳、体の健康にとって、怠惰が有益となることはありません。怠惰は扉を大きく開いて、サタンを招き入れます。彼はその機会を活用し、若者を彼の罠に陥れるのです。怠惰によって道徳の力が弱められ、欲情の衝動が強められるばかりでなく、サタンの使いたちが心の砦全体を占領し、良心を強制してみだらな欲情に溺れさせるのです。私たちは自分の子供たちに、勤勉な実業の習慣を教え込むべきです。彼らを甘やかしすぎないように用心すべきです。労働において困難に直面するとき、彼らのためにそれを負ってあげるのではなく、彼らが困難を乗り越える手助けをしてあげるべきです。私たちにとって、当面は前者の方がたやすいかもしれませんが、それでは自助努力という有用かつ貴重な教訓を子供たちに教え損ない、結局は私たちの苦勞の種を大いに増すことになるのです。子供たちの内に寛大で高潔な原則を目覚めさせ、懸命な努力を促すべきです。それが彼らを多くの誘惑から守り、彼らの人生を幸福なものにしてくれるのです。

食事と道徳性の関係

私の姉妹であられる皆さん、母親として私たちは、子供たちの知、徳、体の健康に対して大きな責任があります。彼らに正しい生活習慣を教えることによって、多くを成し遂げることができます。私たちの模範によって、自分で健康を大いに増進させること、またその法則を破るべきでないことを、彼らに示すことができます。子供たちの健康を害するような食べ物を食卓に載せることを、私たちの習慣とすべきではありません。私たちの食べ物は、香辛料を全く用いないで調理すべきです。ミンスパイ〔ひき肉入りのパイ〕やケーキや砂糖煮、またグレービー〔肉汁〕のかかった、濃厚に味付けられた肉類は、体内で熱っぽい状態を作り出し、動物的欲情を燃え上がらせるのです。私たちは子供たちに、克己の習慣を身につけるよう教えるべきです。また人生の大きな戦いは、自己との戦いであり、欲望を抑えて、知的また道徳的能力の支配下に置くための戦いであることを教えるべきです。

姉妹の皆さん、食欲を誘惑するために調理をし、こうしてより良い目的のために用いられるべく神から与えられた力を尽きさせることのないよう、台所で過ごす時間を減らすよう懇願します。あっさりした栄養のある食事は、多大な労働を要さないでしょう。私たちは、より多くの時間を、神への祈りに捧げるべきです。謙虚な心で真剣に、主の指導と訓戒の内に子供たちを育てるための知恵を求めるのです。精神の健康は、肉体の健康にかかっています。私たちはクリスチャンの親として、生命の法則を子供たちに教え込む義務があります。私たちは食べるために生きるのではなく、生きるために食べるのだということを、教訓と模範によって彼らに教えるべきです。子供たちの内に、高貴な精神と、純粹で高潔な品性を愛する心を助長すべきです。彼らの内に道徳的知覚力を増加させるためには、生活を規則正

しくし、動物性食品をなくし、食材には穀類や野菜類、果物を用いなければいけません。

模範の力

母親の皆さん、家族の中であなたのなすべき働きがないでしょうか。「既に存在する悪を、私たちはどうやって取り除くことができるでしょうか。どうやって働きを始めれば良いのでしょうか」と、あなたは尋ねるかもしれません。もし知恵が不足しているなら、神のみもとへ行きなさい。神は、惜しみなく与えると約束なさいました。神の助けを、しばしば、そして熱心に祈り求めなさい。一つの規則をすべての場合に当てはめることはできません。今は、清められた判断力を働かすことが必要です。せっかちになったり、いらいらすることなく、また子供たちに厳しい譴責を与えてもいけません。そのようなやり方は、彼らの内に反発心を抱かせるだけです。あなたが犯したいかなる過ちについても、深く反省すべきです。それが、サタンが子供たちを誘惑するための扉を開いてしまったのかもしれないのですから。もしもあなたが、健康の法則について彼らに教えていないならば、責めはあなたにあります。あなたが重大な義務を怠ったのです。その結果が、あなたの子供たちの悪習となって見られるのかもしれないのです。子供たちに自制の教訓を教えようとする前に、あなた自身がそれを学ぶべきです。もしあなたが容易に興奮しいらいらするとしたら、欲情を制するように教えている間、あなたは道理が通っているとどうやって子供たちに思わせることができるでしょう。冷静沈着に、深い同情の念を抱きつつ、道を踏み外した子供たちに近づくべきです。そして、もしその悪習を続けるならば、彼らの体質は確実に破壊される

ということ、また身体と知能を衰弱させるにつれて、道徳は必ず腐敗し、この事において彼らは、自分自身に対してだけでなく、神に対して罪を犯しているということを、きちんと示すべきです。

可能ならば、彼らが罪を犯しているのは、神に対して、すなわち純粋で聖い神に対してであるということを、彼らに感じさせるべきです。心を探る大いなる方は、彼らの行為を不快に思われ、彼の御目に留まらぬものは何もないということを、彼らに分からせるべきです。もしもあなたの子供たちが、後悔するだけでなく、神に受け入れられる悔い改めを、すなわち救いに至る悔い改めを促すほどの信心深い悲しみを実践するよう、彼らに印象づけることができれば、悔い改めの働きは徹底的なものとなり、確実な改革が行われることでしょう。単に自分の罪が知られたから悲しむのではなく、自らの罪深い行為を、その忌まわしい姿で見るようになり、ためらわずにそれを神に告白するよう導かれるようになり、それらを捨て去るようになるでしょう。彼らは、自らの誤った行為を悲しむようになるでしょう。なぜなら、彼らは神を不快にさせ、神に対して罪を犯し、彼らをお造りになり、彼らの身体を、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として捧げるよう要求なさり、それが道理の通った礼拝であると言われた方の御前で、自らの身体を辱めたからです。

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。」第一コリント 6:19, 20。

神が真心からの悔い改めをお受け入れになり、あらゆる肉と霊の汚れから清まろうと努力する彼らを祝福して下さるために、あなたの子供たちを励ますべきです。あなたの子供たちの心を支配する力が失われていくのを見るときに、サタンは彼らを激しく誘惑し、彼らがこの魅惑的悪習を続けるようがんじがらめにしようとします。けれども、断固とした目標をもって、彼らは動物的情欲にふけるようにとのサタンの誘惑に抵抗しなければなりません。なぜなら、それは神に対して罪を犯すことになるからです。サタンが彼らに対する支配権を主張することのできる禁じられた領域に、彼らは足を踏み入れるべきではありません。もしも彼らがへりくだって、純潔な思いと、精錬され、清められた想像力を神に請い求めるならば、神は彼らに耳を傾け、彼らの願いを叶えて下さるでしょう。神は、彼らが罪の内に滅びるままに放っておかれたことはなく、もし彼らが信仰の内に自らを主に投げ出すならば、弱く無力な者を助けて下さることでしょう。自分の体力と知力が衰弱するまで密かな悪習にふけてきた人たちは、自然の法則を犯したことの結果から完全に回復することはないかもしれません。が、この世と来るべき世における彼らの唯一の救いは、全的改革にかかっているのです。改革への道から外れることは、どれも回復をより絶望的なものにしています。しばらくの間悪習を断った後で、仮に明らかな改善が感じられなかったとしても、落胆するには及びません。自然の法則があまりにも長い間虐待されていない限り、直ちに実感がなかったとしても、自らの回復の仕事を進めることでしょう。しかしある人たちは、あまりにも長い間自然を虐待してきたため、完全に回復することはないでしょう。このような人たちは、多少なりとも、生きている限り自らの行いの実を刈り取らなければなりません。

誤った習慣に陥っている、すべての弱い若者をとがめているわけではありません。純真かつ良心的でありながらも、仕方な

く様々な原因により苦しんでいる者たちがいます。

確かな避難所

私たちの子供たちにとって、あらゆる悪習に対する唯一の確かな安全は、キリストの群の中に入れられることを求め、忠実で真実な羊飼いの保護下に置かれることです。もし彼らが御声に耳を傾けるなら、キリストは彼らをすべての悪からお救いになり、あらゆる危険から彼らを守られることでしょう。彼は、「わたしの羊はわたしの声に聞き従う」と言われます。彼らはキリストにあって牧場（まきば）を見つけ、力と希望を得、何か思いをそらしたり、心を満足させるもののために定まらない熱望を抱いて悩むようなことはないでしょう。彼らは非常に高価な真珠を見つけ、思いは平安な気持ちに安んじているのです。彼らの楽しみは純粹かつ高尚なもので、天の特徴を帯びています。このような楽しみは身体を弱めることなく、知能を衰弱させることもなく、双方に健康と活力を与えてくれます。

神との交わりや神への愛、聖なることの実践や罪の滅亡は、すべて喜ばしいものです。神の言葉を読むことは、空想をかき立てたり架空の物語本のようなものへの愛着をたきつけたりすることなく、心を柔和にし、高め、清めてくれます。若者が悩み、激しい誘惑に襲われるとき、彼らには祈るという特権があります。何という高貴な特権でしょう。塵と灰から造られた有限な存在が、キリストの仲保によって至高者の謁見室に入れられるのです。このようなことがなされるときに、魂は神との神聖かつ親密な交わりに入り、敵の攻撃に対する防壁が築かれるのです。

口先でどれほど立派なことを言おうと、自ら進んで肉の欲を満たそうとする人たちは、クリスチャンではありません。キリストの僕として、彼らの仕事や瞑想課題や楽しみは、一貫してよりすぐれた事であるべきです。

これらの習慣の邪悪さと、それらの確かな結果について、多くの人たちは無知であります。このような人たちは、教えらる必要があります。キリストに従う者であると公言していながら、ある人たちは、自分たちが神に対して罪を犯し、自らの健康を害していることを知りながら、それでも自分自身の腐敗した欲望の奴隷となっているのです。良心のやましさを覚えつつも、徐々に彼らは、密かな祈りの内に神に近づこうとしなくなります。宗教の形式は保っているかも知れませんが、心の中に神の恵みを保っていません。神の働きに専心せず、神に信頼することなく、神の栄光のために生きることもなく、神の規定に喜んで従うことも、神を喜ぶこともありません。第一の戒めは、すべての生きる者が、心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして神を愛し、神に仕えることを求めています。特に、クリスチャンであると公言する人たちは、神に受け入れられる服従の原則を理解すべきです。

心が伴わず、神の戒めに従うことを拒んでいながら、単に口先だけの、また形だけのクリスチャンを、神がお受け入れになると期待することができるのでしょうか。情欲という祭壇の上で、体力と理性を犠牲に捧げていながら、つまり道を誤り続けながら、彼らの注意散漫かつ精神薄弱な礼拝を、神がお受け入れになると考えられるのでしょうか。このような人たちは、自分たちの頭にピストルを当て、瞬時に自らの生命を奪う自殺者らと何ら変わりません。前者は、自殺に手間取る分もっと衰弱し、体質と知能の活力を破壊する働きは少しずつであっても、それでも確実に衰えていくのです。生きている間、自分たちの愚か

な影響でもって地を呪う彼らは、罪人らにとってつまずきの石となり、友人たちの間に現存する悲しみを引き起こし、彼らの衰弱のしるしと、損なわれた知性の証拠を日々目の当たりにするたびに、はかりしれない不安という荷を友人たちに負わせるのです。

自滅とその刑罰

神の御目には、瞬時に自らの生命を奪うことは、徐々にではあっても、確実に身を滅ぼすこと以上に大きな罪ではありません。悪行によって自らに確実な衰弱をもたらす人たちは、現世において刑罰を受けることになり、徹底的な悔い改めがなされない限り、来世において天国に入れられることはありません。つまり彼らの報いは、瞬時に生命を断つ人と何ら変わらないのです。原因とその結果が密接に関連しているのは、神の御旨によるものです。最も小さな神の律法を犯しても、恐るべき結果を伴います。誰もが結果を避けたがりますが、結果を生み出した原因を避けようとはしません。原因が間違っていれば、しかるべき結果を伴います。そしてその知識が、違反者を拘束することになるのです。

天の住民らは完全であります。なぜなら、神の御旨を行うことが彼らの喜びであり、最高の楽しみだからです。ここでは多くの人たちが自分自身の安寧を破壊し、健康を損ない、良心に背くのです。なぜなら、悪行を止めようとしなないからです。それに対する愛着や欲望を抱きながら、肉体の行為を制するための禁欲は、何の効果もありません。彼らはキリストを信じると公言していながら、キリストに従う者ではありません。そして

彼らが自分たちの悪行を止め、義の業を行うようになるまで、キリストに従う者とはなり得ないのです。

女性の活力は男性のそれよりも低く、屋内にこもりがちな生活によって人に活力を与える空気が得られずに、更に多くの活力が奪われます。彼女たちが自慰にふけた結果は、様々な病気となって現れます。粘膜の炎症や水腫、頭痛、記憶力や視力の減退、背中や腰の極度の衰弱、脊椎の疾患と、しばしば起こる頭脳の衰えなどがそれです。生きている間体内に潜んでいる癌体液が炎症を起こすと、身体をむしばむ、破壊的な働きを始めるのです。しばしば頭脳は損なわれ、発狂してしまうことがあります。

もしも悪習にふける人たちが、現世における健康と、来世における救いの価値を認めるとしたら、彼らの唯一の希望は、これらの悪習から永久に離れることです。これらの習慣が長く続いている場合は、誘惑に抵抗し、墮落した放縱を拒否するのに、断固とした努力を要します。自らの行為によって身を滅ぼす人たちは、決して永遠の生命にあずかることがありません。現世において神から与えられた健康と生命を虐待し続ける人たちは、神の永遠の御国において健康と不死の生命が与えられたとしても、それらを正しく用いることはないでしょう。

密かな習慣にふけることは、必ず身体の活力破壊につながります。すべての不必要な活力の消費には、それ相応のうつ状態を伴うでしょう。若年期に活力の資本と脳にあまりにも激しい負担がかけられるため、若者たちの間に欠乏と極度の疲労が見られます。そのため身体は、様々な種類の病気にさらされるのです。しかし最も一般的なのは、体力の消耗であります。活力を使い果たしてしまったら、誰も生きることはいけません。その人は死ななければならないのです。神は、不純なものをこと

ごとく嫌われます。ですから、徐々にではあっても確実な衰えに身を任せる人たちは、ことごとく神のひんしゆくを買うことになるのです。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」第一コリント 3:16, 17。

自分自身の肉体を汚す人たちは、真心から悔い改め、全的改革を行い、「神をおそれて全く清く」ならない限り、神の好意を受けることはできません。身体を衰弱させ、活力を極度に弱め、ついには神のかたちにかたどられた存在を完全に破壊するような習慣にふける人は、誰一人クリスチャンになることはできません。この道徳的汚染は、必ず報いを伴うでしょう。原因は必ず結果を生み出します。キリストの弟子であると公言する人たちは、あらゆる思いと行為を向上させつつ、不死の備えをしているべきであり、もし救われるならば、しみもしわも、そのたぐいのものも一切ない者とならなければならないことを、常に自覚すべきです。彼らのクリスチャン品性には、欠点があっはいけません。さもなければ、聖い天国に入れられ、神の永遠の王国において、純潔無垢な者たちと一緒に住むにふさわしくない者と宣告されることでしょう。

サタンの特別な働き

この最終時代に、若者たちの心を支配し、彼らの思いを汚し、彼らの情欲に火をつけることが、サタンの特別な働きです。そ

うすることによって、彼らを自己汚染へと導くことができ、それから頭脳のあらゆる高潔な能力が低下し、こうして自らの目的に沿って彼らを支配できるようになることを、サタンは知っているのです。すべての人は、道徳的に自由です。それ故に、彼らは自分たちの思いを、正しい流れに流れ込ませなければいけないのです。彼らの瞑想課題は、精神を高揚させ、イエスや天国を思考の主題とするような性質のものであるべきです。ここに、安全に思いを巡らすことのできる広い領域があります。もしもサタンが、これから低級で官能的な事柄へと心をそらせようとするなら、再び本心に立ち返り、永遠の事柄に心を留めなさい。純潔な思いだけを留めようとする断固とした努力を主がご覧になるとき、主が磁石のように心を引きつけ、思いを純潔にし、心そのものをすべての密かな罪惡から清めて下さるでしょう。「神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ」るのです。第二コリント 10:5。

改革を行おうとする人たちの最初の仕事は、想像力を純潔にすることです。もし思いが悪質な方向へと誘い出されるならば、純潔で高尚な主題にのみひたるよう抑制されなければなりません。腐敗した想像に思いを任せるよう誘惑されたら、その時は恵みの御座へ逃れ、天来の力を祈り求めなさい。神の御力において、想像力は、純潔で天来の事柄を宿すよう訓練され得るのです。

世の悪習の手ほどきを受けてきたある若者たちは、他の知りたがり屋の好奇心を目覚めさせようと努め、知らないでいいはずの、秘密の知識を彼らに授けます。せっかく学んだ悪習を自ら行うだけでは満足しないのです。悪魔にせかされて、自分たちの邪惡な情報を他の者たちに吹き込み、彼らの善良なならわしを墮落させるのです。確固たる宗教の原則を持たない限り、

若者たちは墮落してしまうでしょう。他の心を惑わし、墮落させるための媒介として、サタンが彼らを利用するままにさせた者たちには、重い刑罰が注がれるでしょう。エデンにおいては、蛇に重い呪いがかけられました。人類最初の両親が神に背くよう、彼らを誘惑するのにサタンが利用した媒介となったからでした。また、他の人々を破滅させるための道具として我が身を委ねる者たちには、神からの重い呪いがついて回ることでしょう。更に、我が身を惑わされるに任せ、悪習を学ぶ者たちは、自分自身の罪に苦しむでしょうが、それらの悪習を他に伝える罪にあずかる者たちは、自分自身の罪に苦しむばかりでなく、犯すように他の人々を導いた罪に苦しむことにもなります。このような人たちは、生まれない方が良かったでしょう。

神からの知恵を持っている人たちは、賢い者となるために、この時代の罪深い知識については愚かな者とならねばなりません。悪を見て学ぶことのないよう、彼らは目を閉じているべきです。悪いものを耳にして、彼らの思いと行為の純潔さを汚すような知識を得ることのないよう、耳に栓をしているべきです。また彼らは、腐敗した情報を伝えて、口に欺瞞が見つけられることのないよう、舌を見張っているべきです。

助けの源

この世における恩恵期間中、すべての人は自らの行動に責任があります。すべての人には、自らの行動を統制する力があります。もしも思いと行為の美德や純潔が弱ければ、無力な者の友であられるお方から助けを得ることができます。イエスは人

性のあらゆる弱さを熟知しておられ、懇願されれば、最も強力な誘惑にも打ち勝つ力をお与えになることでしょう。謙遜に求めるならば、誰でもこの力を得ることができます。幸いにもイエスは、罪の重荷に苦しんでいるすべての人を、罪人の友であられる彼のみもとに来るようにと招いておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」マタイ 11:28－30。

最も探求心の旺盛な人たちは、キリストの学校で安全に学ぶことができます。そこは、彼らの現在と永遠にわたる益になることを証明してくれるでしょう。不安と不満のある人たちは、ここに休息を見出すことでしょう。思いと愛情の中心をキリストに置いて、地上の最も価値のある宝よりも、彼らにとって価値あるものとなる真の知恵を得ることでしょう。

多くの自称クリスチャンは、根気強く努力をしません。彼らの努力はあまりにも少なく、自己を否定する備えも意志もありません。生きたクリスチャンは、「あらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることで」しょう。「更に……、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍」ぶことでしょう。コロサイ 1:9－11。「キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている」のです。コロサイ 2:3。

ここに、すべてのクリスチャンが望み、持っているべき真の知識があります。この知識は、不信心へと導くようなものではありません。それが体質を壊すことはなく、精神に暗雲をもたらすこともありません。かえって、大きな喜びと真の幸福を与えてくれるでしょう。これは神の知恵によるもので、平安と喜びと健康を与える清水を絶えず湧き出させてくれるのです。

多くの自称クリスチャンが、この天来の知識を真剣に求めているようです。そして、得ることが彼らの特権であるこの神からの恵みについて、わざと無知であろうとするのです。若者にとって唯一の安全は、この貴重な知恵を求めることです。この知恵が必ず、墮落した知識を求める思いをことごとく粉碎してくれるでしょう。こうして彼らが、信仰と神聖さの、純粋かつ穏やかな、満足のいく喜びの味をしめたとき、彼らは全感情をもって汚れた快楽を忌み嫌うようになるでしょう。意志を働かせるなら、誰でも生命を選ぶことができます。彼らは罪に抵抗し、正義と真に神聖な道を喜び、神の永遠の御国において永遠の生命という報いにあずかることができるのです。

もしも主の御前で墮落の道を選び、自分自身の肉体を汚して自殺を図ることを選ぶなら、彼らはそれを行うことができます。しかし、審判が行われて巻物が開かれ、自分たちの行いに従い、巻物に記されている事柄について裁きを受ける日が来ることを、彼らは覚えているべきです。しみのついた記録、すなわち彼らの密かな思いと邪悪な行為の記録が彼らの前で開かれるとは、何と恐るべき事でしょう。判決が言い渡され、彼らは不信心者らと共に神の都から閉め出され、悪人らと共に悲惨な最期を遂げるのです。

今が準備の時です。彼らが努力しなくても、神が彼らを備え、彼らのためにお膳立てをして下さると、誰も期待すべきではあ

りません。天に潔白な記録を残すべく、義を行い、恩恵期間が閉じる前に割り当てられた短い時間であらゆる善行をなすことが、彼らの務めです。預言者の嘆願の言葉をもって、筆を置こうと思います。

「心を翻せ、心を翻してその悪しき道を離れよ。イスラエルの家よ、あなたはどのようにして死んで良からうか。」エゼキエル 33:11。

第2章 感傷主義〔センチメンタリズム〕

自分たちの結婚を不幸な出来事と考えている女性を、私は何人も知っています。彼女たちは小説を読みふけり、ついには想像力が病的になり、自分自身が造った世界に住んでいるのです。自らが繊細な心を持っていて、自分たちは優秀で洗練された生命体であると考えているのです。彼女たちは自分たちを偉大な犠牲者、殉教者と考えています。なぜなら、自分たちの夫はそれほど洗練されておらず、彼女たちの想像上の美德や洗練された知性を評価できるほどの優れた素養を持ち合わせていないと考えるからです。これらの女性たちはこの事について語り、それについて思いめぐらし、ついにはこの主題にほとんどとりつかれてしまうのです。彼女たちの価値は他の人間を上回っており、凡人とつき合うのは自らの優れた感性に反すると考えるのです。

この部類の女性たちは、小説を読むことと空想にふけること、すなわち架空の世界に住むことによって、自らの想像力を歪めてしまっています。彼女たちは、自分たちの着想を、人生の平凡で有用な義務のためにへりくだって用いようとしません。彼女たちは、人生の路上にころがっている荷を背負おうとせず、夫のために幸福で楽しい家庭を作ろうとしません。夫に頼りきり、荷を負わせておきながら、自分自身の荷を負うことはしません。自分たちは自由に他人のあら探しをし、好き勝手に詰問しておきながら、自分たちの欠点は他の人たちがあらかじめ補ってくれることを期待するのです。このような女性たちは恋煩い

の感傷主義に陥っており、自分は認められていない、夫は自分にあまり注意を払ってくれないと常に考えています。自分たちは殉教者のつもりでいるのです。

事の真相はこうです。もし彼女たちが自分自身を有用な者とするなら、彼女たちの価値は評価されることでしょう。けれども、絶えず他の人たちから同情と注意を引こうと求めている限り、つまり、人に同様の同情と注意をお返しする義務があるとは気付かず、他の人に対する重荷を担ったり、彼らの苦痛を思いやったりすることなく、よそよそしくて冷たく、近寄りがたい態度を示している限り、彼女たちの人生において、尊く価値あるものはほとんど見出し得ないでしょう。これらの女性たちは、今の夫と結婚したことだけでも大きな屈辱であり、従って、自分たちの優れた存在自体が完全に評価されることはないと考えるように自らを教育し、そのようにふるまうのです。

彼女たちの物事の見方は、ことごとく間違っています。彼女たちの方が夫にふさわしくありません。小説や恋愛ものに見られる非現実的な人生を夢見る代わりに、夫と共に人生の重荷を負い、助け手となったかもしれないときに、絶え間ない負担となって、心配と苦勞をかけるのです。人に仕えられ、食べ、服を着て息をすることしか能のない、このような役立たずの機械を、主が憐れんで下さるように。

自分はこのような繊細かつ洗練された存在であると自負するこれらの女性たちは、役に立たない妻、母親となります。このような場合はしばしば、有用かつ実用的な夫に対する愛が冷え、他の男性に大きな関心を示すようになります。こうして彼女たちは、恋煩いの感傷主義でもって他の人々の同情を引き、自らの試練や悩み、ある高潔な働きをしたいという強い願望について語り、自分たちの結婚生活は期待はずれであり、自分たちが

やりたかった働きの邪魔になることをうち明けるのです。

ああ、幸福になり得た家族に、何という不幸が存在することでしょう。これらの女性たちは自分自身にとって、また夫にとって呪いであります。自らを天使と思いこむことで、自らを愚か者としている彼女たちは、重荷以外の何ものでもありません。主が行うよう与えられた人生の平凡な義務を怠り、常に容易で高貴な、行うのにより好みに合う仕事を探し求めながら、落ち着かない、文句ばかり言う人になっています。自らを天使と思い込みながら、結局人間くささを露呈しているのです。彼女たちはいらいらしていて怒りっぽく、不満げで、夫に嫉妬しています。夫の時間の大部分が、自分に仕えるために費やされていないからです。夫が自らのやるべき仕事をきちんとこなしているときに、自分はなおざりにされていると不平を言います。このような連中に、サタンは容易に接近できるのです。彼女たちは、自分自身以外は誰も本当に愛していません。それにもかかわらずサタンは、もし自分と同様の人を夫に持ったら、間違いなく幸せになれると語るのです。彼女たちはサタンの企みにとって格好の獲物であり、容易に夫を辱め、神の律法を犯すよう導かれるのです。

この部類の女性たちに申し上げます。自分自身の幸福をかなえるのも、破壊するのも、あなた次第です。あなたは自分の立場を幸福なものにも、耐え難いものにもすることができます。あなたの追求する道が、自らの幸福か不幸を作り出すことでしょう。これらの女性たちは、彼女たちの役に立たないこと、気むずかしさ、あら探し、自分は何てかわいそうなのだろうと思って、急に感情的になって泣き出すところに、夫たちがうんざりするようになるとは考えたこともないのでしょうか。いらいらしていて怒りっぽい気質が、実際に夫たちの愛情を彼女たちから引き離し、家庭以外の場所に同情と平安と慰めを求めるよう追い

立っているのです。彼らの住居を有害な雰囲気が覆っています。そして家庭が、彼らにとって全く、休息や平安や幸福の場所ではなくなっています。夫がサタンの誘惑にさらされ、彼の愛情が禁じられた対象に向けられています。そして彼は犯罪へと駆り立てられて、ついに失われるのです。

女性の使命

女性、特に妻と母親の働きと使命は偉大であります。彼女たちは、周囲のすべての者にとって祝福となることができます。善のための強い影響力となり得るのです。もしも自らの方法と意志を神に明け渡し、自らの精神と愛情、存在そのものを神の支配に委ねさえするなら、女性は人を変えるほどの影響力を持つことができるのです。彼女が交わる人たちを洗練し、高めるほどの影響力となり得ます。ところが一般に、女性は自分が持っている能力に気付いていません。気付かずに影響を及ぼしているのです。清らかな生活、新たにされた心から、自然に良い結果を生んでいるようであります。それは、神が植えられた良い木に育つ、自然の実であります。キリストの生命のうちに自己は忘れ去られ、吸収されます。善行は、彼女の呼吸のように自然にあふれ出てきます。他の人々に善を行うために生き、しかも、「私は卑しいしもべです」と心から言うことができます。

神は女性に使命を与えておられます。そして、もしも彼女が謙遜に、能力の限りを尽くして、家庭を天国とするなら、すなわち夫や子供たちに対する自らの義務を忠実に、愛情を込めて果たし、周りのみんなを明るくするために、絶えず自らの有用で純粹かつ高潔な生活からの神聖な光を輝かそうと努めるなら、

彼女は主から委ねられた働きを行っているのであり、主のくちびるから「良い忠実な僕よ、よくやった。主人と一緒に喜んでくれ」とのお言葉を聞くことでしょう。夫の重荷を共に負い、神のために子供たちを訓練しつつ、絶えざる意欲と快活さをもってその手のなし得ることを行っている女性たちは、最も気高い意味で伝道者となるのです。彼女たちは、死すべき人々を更に高い生涯に備えさせるために、地上でなされるべき偉大な働きの重要な枝なのです。彼女たちは、その報いを受けるでしょう。子供たちは天国に入るための訓練を受け、御国の宮廷において輝くのにふさわしい者となるべきです。

災難の原因

親たち、特に母親が、行うよう神に託された責任のある働きを真に自覚するとき、近隣の人たちに関わることに、つまり彼女たちには無関係な事柄に、それほど首をつっこむようなことはなくなるでしょう。家から家を回ってうわさ話に花を咲かせ、近隣の人たちの欠点や矛盾する点をあげつらうようなことはなくなるでしょう。自分自身の子供の世話を重大事と感ずるため、隣人のあら探しをしている暇はなくなるのです。近所や教会にとって、おしゃべり女や情報屋は恐るべき呪いであり、教会のあらゆる災難の三分の二は、これが原因で起こるものです。

神はすべての人に、今日の義務を忠実に果たすよう求められます。クリスチャンと公言する人たちの大多数が、これをひどく怠っています。特に、私が言及した部類の人たち、すなわち自分が周囲の人間よりも高い身分の存在であると思い込んでいる連中によって、当面の義務が見失われています。思いがこの

方向に流れているという事実が、彼女たちは劣っていて心が狭く、うぬぼれと利己心の強い凡人であることの証明です。卑しくて貧しい者たちよりも、自分はずっと身分が高いと感じるのです。「私はこのような人たちを召した」とイエスは言われました。彼女たちは、地位を確保し、賞賛を得、他の人たちにできない何か偉大な働きをしているという手柄を獲得するために、いつまでも頑張っているのです。ところがそれは、身分が低くて不幸な人たちと交わるための、洗練された人間の良い性質を乱します。彼女たちは理由をことごとくはき違えます。あまり気に入らないこれらの義務を避けるのは、最高の利己心の故です。自己愛が、彼女たちのあらゆる行動と動機を中心なのです。

キリストの模範

天使たちが拝した天の至高者、誉と壮麗さと栄光に富んでおられたお方が、地上に来られ、人としてのご自身の姿を見られたとき、彼は、不幸な者たちから離れてご自身の地位を確保するための言い訳として、自らの洗練された性質を主張なさいませんでした。彼は、不幸で貧しく、苦勞している、乏しい人たちのただ中で働かれました。キリストこそは、洗練と純潔の具現化されたお方でした。彼こそは、気高い生涯と品性そのものでした。が、大げさな肩書きの持ち主や、この世で最も尊重される人物の間ではなく、蔑まれた貧困者の間で働かれました。「私は……失われたものを尋ね出して救うために来たのである」と、天来の教師は言われます。そうです。天の至高者は常に、助けを最も必要としていた人たちを助けるために働いておられたのでした。情けない自己に固執するあまり、最も無力な人を助けることは、自分たちの洗練された好みと高い召しにふさわしく

ないと見なす人たちがいます。キリストの模範が、このような人たちの言い訳を恥じ入らせることを願います。自分たちの主よりも高い地位を乗っ取ったこのような人たちは、最後には自分たちが、交際し仕えたと、彼らの敏感で洗練された性質がショックを受けたところの階層の人たちよりも、身分が低くなっていることに驚くでしょう。確かに、主と結合し、最も助けを必要としているその人たちを助けることにおいて主の共労者となるのは、いつも好みに合ったり、快いとは限りません。でもこれこそ、キリストが己を低くして行われた働きなのです。僕は主人にまさる者でしょうか。キリストは模範をお与えになり、それに倣うよう私たちに命じておられます。好みに合わないかも知れませんが、この任務を果たすことこそ、私たちの本分なのです。

圧倒的習慣

卓越した知性と能力を持つ男女を支配下に収めた官能的な欲情の強い影響力を見て、私は深く感じ入りました。官能的欲情の奴隷となっていなければ、彼らは良い働きに携わり、強い影響力を発揮する能力があります。彼らは、裁きについての最も厳粛かつ印象的な講演を聴き、それは神の法廷に出されたかのような気持ちにさせ、彼らを震えおののかせました。ところが、ほとんど一時間もたたないうちに、彼らは自分たちの好む、魅惑的な罪に夢中になり、自分自身の肉体を汚しました。彼らはこの恐るべき悪事の奴隷であるため、自らの欲情を抑える力がないようでした。私たちは、幾人かの人たちのため真剣に骨を折りました。懇願し、涙を流し、祈りましたが、私たちのあらゆる真剣な努力と苦悩の甲斐もなく、罪深い習慣の力が勝利し

たことを知ったのでした。これらの罪が犯されようとしていました。気がとがめたある人たちは、痛烈な病を通して、あるいは強く罪を自覚して良心が目覚め、そしてさいなまれ、深くへりくだって告白へと導かれることがあります。他の人たちも同様に有罪です。彼らはほとんど生涯中この罪を習慣的に行い、衰えた体質でもって、また策「ざる」のような記憶力でもって、この致命的な習慣の結果を刈り取り、それでも誇りが邪魔して告白することができないのです。彼らは隠しだてが上手く、この大きな罪惡に対する良心の呵責を露呈することはありません。神の御霊の感化に無関心なように見えます。神聖なものと一般的なものとの区別がつかないのです。彼ら自身の肉体を汚している、非常に下劣な一般的悪習は、苦い涙と心からの悔い改めへと彼らを導いてきませんでした。自分の罪は自分自身だけの問題であると、彼らは思っています。彼らはここで誤ります。彼らが肉体か精神の病に冒されると、他の人たちが影響を受けます。他の人たちが苦しむのです。誤りが繰り返されます。記憶力は低下し、想像力はおかしくなります。どこを向いても欠陥だらけで、彼らが一緒に住んだり、交際している人たちに深刻な影響を及ぼします。これらの事が別の人に知られるために、これらの人たちは、無念さと後悔を覚えます。

この魂と肉体を破滅させる悪習の力を例示するために、私はこれらの事例について言及しました。全精神が、低い欲情に傾けられています。道徳と知性が、より官能的な勢力によって押さえつけられています。体力は弱まり、頭脳は低下しています。全身に栄養を与えるために入れられる成分が、浪費されています。体力の消耗は、はなはだしいものがあります。不自然な活動へと駆り立てられることによって、脳の繊細な神経が無感覚になり、いくぶん麻痺しています。官能的な欲情がますます強まり、実践によって更に発達している一方で、道徳と知性がどんどん弱まってきています。不健康な食物に対する食欲が、放

縦をやかましく求めています。自慰の習慣の虜となっている者たちの道徳的感覚を呼び覚まし、永遠の事柄を認識させるのは不可能であります。このような人たちを、霊的な精神運動を楽しむように導くことはできません。不道徳な思いが想像力を捕らえて支配し、精神をうっとりさせ、次に、不道徳な行為へのほとんど抑制不可能な願望が続くのです。崇高な主題を瞑想するよう精神を教育し、純粹で神聖な事柄を熟考するよう想像力を訓練するならば、心はこの恐ろしい、人を墮落させ、魂と肉体を破壊する放縱に対して強化されるでしょう。心は気高く、天来の純粹で神聖な事柄を楽しむことに慣れ、この官能的で腐敗した、淫らな放縱に魅了されることはないでしょう。

真理の鮮やかな光のただ中に生きていながら、日々罪惡の道を習慣的にたどっている人たちについて、何を言うことができます。禁じられた、刺激的な快樂が彼らを魔法にかけ、彼らの全存在を捕らえ、支配しています。このような人たちは不義と不正を喜び、神の都の外で、あらゆる忌まわしいものと一緒滅びなければなりません。

私は、親たちを義務に目覚めさせようと努めましたが、彼らは眠り続けています。あなたの子供たちは密かな悪習にはまり、彼らはあなたを欺きます。彼らに対して絶対的確信を抱いているあなたは、いい子で無邪気な彼らが、密かに不義を行っているはずはないと考えるのです。両親は子供たちをかわいがって甘やかし、彼らの誇りを助長しますが、断固として彼らを抑制することはしません。彼らの強情な精神を恐れるあまり、彼らと接触するのを怖がるのです。しかし、エリの代名詞となった怠慢の罪が、彼らの罪となるでしょう。永遠の生命を目指して奮闘しているすべての人にとって、ペテロの勧告は最も価値があります。同様の尊い信仰を持つ人には、次のような言葉が述べられています：

「イエス・キリストの僕また使徒であるシモン・ペテロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストとの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を授かった人々へ。神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう。これらのものを備えていない者は、盲人であり、近視の者であり、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れている者である。兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。こうして、わたしたちの主また救い主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである。」第二ペテロ 1:1－11。

私たちは、光と知識が溢れている世界にいます。が、同様の尊い信仰を持っていると主張している多くの人が、自ら進んで

無知でいるのです。光は彼らの周囲に満ちているにもかかわらず、光を自分自身に当てはめようとしません。親たちは、知識を得て、その知識を結婚生活に生かすことを自らに啓発する必要を悟っていません。もしも彼らが使徒の勧告を成し遂げ、一步一步加えられていく計画に従って生きるなら、私たちの主イエス・キリストの知識が実を結ばないというようなことはないでしょう。多くの人は、聖化の働きを理解していません。それは漸進的な働きであります。それは一時間または一日で達成されたり、彼らの側の努力なくして維持されるようなものではありません。足し算の初歩を学んだだけでその域に到達したと、多くの人は考えているようです。

夫婦間の過剰な行為

自分たちは結婚生活を尊重すべきであるとの知識を、多くの親たちは得ようとしません。サタンが彼らを利用して、彼らの心と生活を支配することのないよう、用心していません。いかなる過剰な行為をも抑えるよう、神が彼らに求めておられることを悟っていないのです。そして、自らの情欲を治めるのは宗教的義務であると感じている人は、ほとんどいません。自ら選んで結婚によって結ばれたのだから、結婚生活において、より官能的な欲情にふけるのは正当であると、彼らは推測します。神を敬うと公言している男女でさえ、自分たちの淫らな欲情に身を委ね、活力を消耗させた責任を神が彼らに問われるとは、考えもしません。活力の消耗は生命力を弱め、体全体から元気を奪います。

結婚の契りが、最も暗い罪を覆います。神を敬うと公言して

いるある男女は、彼らの品位を野獣以下に落とす、腐敗した欲情にふけることにより、自分自身の体を墮落させています。聖別と節操のうちに保たれるよう神がお与えになった能力を、彼らは乱用するのです。卑しい欲情という祭壇の上で、健康と生命が犠牲となっています。より高潔な能力が、動物的な性癖の支配下に置かれています。このような罪を犯す人たちは、彼らが追い求めた道の行く末がどんなものか、よく知らないのです。自らの間違った罪深い放縦によって、自分自身にもたらした苦しみの価を見ることができたら、誰もが驚愕することでしょう。少なくとも幾人かは、このような恐るべき報いをもたらす罪の道を避けるでしょう。悲惨な生活を送るあまり、大多数の人にとって、生よりも死の方が好ましくなります。そして、多くの人が早死にしてしまうのです。彼らの生命は、官能的欲情に過度にふけるという恥ずべき行為の犠牲となっています。結婚しているため、自分たちは罪を犯していないと思っているのです。

これらの男女は、いつの日か、情欲とは何かを学び、情欲を満たした結果を目の当たりにすることでしょう。結婚関係外におけると同様、結婚関係内にも、低俗な欲情が見られることがあります。使徒パウロは夫たちに、「キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい」と勧めています。「それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。」エペソ 5:25, 28, 29。自分の妻を情欲の吐け口とするように男を駆り立てるものは、純粋な愛ではありません。官能的欲情が、人を放縦へといざなうのです。使徒が明確に述べている方法で愛情を示す男性は、ほとんどいません。「キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛し……」、それは（教会を汚すためではなく）、

「教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである」。これこそ、神が聖なるものとお認めになるたぐいの愛です。愛は、純粹かつ神聖な原則であります。淫らな欲情は節度を認めず、理性に指図されることも、抑制されることもありません。結果を考慮に入れることもしません。原因から結果を導き出そうとしないのです。多くの女性が衰弱しきってしまい、生命の法則が顧みられなかったためにもたらされた慢性病に苦しんでいます。自然の法則が踏みにじられてしまっています。低俗な欲情を満たすために不自然な行為へと駆り立てられた男女によって、脳神経の力が無駄に費やされています。そしてこの忌まわしい怪物、すなわち低俗かつ下品な欲情が、愛という名の、一見上品そうな仮面をかぶっているのです。

クリスチャンと公言する人の多くが、神よりも動物に近い者となっています。事実彼らは、ほとんど動物と化しています。この型の男は、彼が養い、大事にすると誓った妻の品位を落とします。彼女は、彼の下品で淫らな性癖の吐け口とされているのです。非常に多くの女性が、甘んじて淫らな欲情の奴隷となっています。彼女たちの所有する肉体は、聖別と節操の内に保たれていません。妻は、結婚前に所有していた威厳と自尊心を留めていないのです。本来この神聖な制度は、彼女の女性としての敬意と神聖な威厳とを保ち、増大させるはずでした。彼女の貞淑で品のある、神に似た女らしさが、淫らな欲情という祭壇の上で焼かれてきました。彼女の夫を喜ばすための犠牲となってきたのです。じきに彼女は、野獣でさえ屈服する法則に気を留めようとしないうちに、夫に対する尊敬の念を失います。結婚生活はいらだたしいくびきとなります。愛が死に絶え、しばしば不信と嫉妬と憎しみに取って代わるからです。

もしも妻が、我慢して夫の奴隷となり、彼の低俗な欲情のために尽くすなら、夫が真の愛情を彼女に対して抱くことはあり得ません。かつては彼の目に留まった女性の価値が、受け身の姿勢にあって失われます。高尚なものがことごとく低い水準に引き下げられるのを見て、じきに彼は、彼女が別の男性に対しても、彼自身に対するのと同様に、おとなしく辱めを受けるのではないかと怪しむようになります。彼女の貞節と純潔を疑い、彼女に飽き、彼のひどい欲情を激しくかき立てる新しい対象を求めるようになります。神の律法が軽視されています。これらの男たちは野獣以下であります。彼らは、人間の姿をした悪魔です。真実で清められた愛の、高貴な原則に馴染みがないのです。

妻は、夫に嫉妬するようになります。チャンスがあれば、彼は直ちに別の女性にも求愛するのだらうと、彼女は怪しみます。彼は良心に支配されておらず、神をも恐れない人物であることに気がきます。これらの聖別された防壁は、淫らな欲情によってことごとく崩れ落ちてしまいます。夫の内にあった神に似たすべての特質は、下品で野蛮な情欲の奴隷となってしまうのです。

世にはこのような男女が満ち溢れています。趣味が良くて人目を引く家、つまり高価な家の中に、地獄が潜んでいるのです。できるなら想像してご覧なさい。このような両親の子供たちは、どのようになることでしょうか。子供たちは、両親よりも更に深みに沈まないでしょうか。両親は、子供たちに品性の刻印を押します。このような両親から生まれた子供たちは、下品で卑しい心の特質を受け継ぎます。サタンは、墮落へと向かうものなら何でも奨励します。今解決すべき問題は、夫が卑しい欲情だけに支配されているのを見るとき、また自分がそれを行うのは身体に有害であることを、理性と知識において確信しているとき、妻は、夫の要求に絶対的に屈するべきであると感じるのか、

ということであります。聖別と節操の内に身体を所有し、神への生きた供え物としてそれを保つよう、神は彼女に命じられたのです。

健康と生命を犠牲にしてまで夫の動物的性癖を満たすよう妻を導いているものは、純粹かつ神聖な愛情ではありません。もしも彼女が真の愛情と知恵を有するなら、興味深い霊的な話題を取り上げて、夫の思いを、淫らな欲情を満たすことから、高尚で霊的なテーマに向けさせるよう努めるはずです。過剰なセックスに身を任せることによって自分の肉体を卑しめることはできないと、彼が不機嫌になる危険を冒してでも、謙虚に、愛情を込めて説得する必要があるかも知れません。神が彼女の全存在を第一に、最高の形で求めておられること、神の大いなる日に責任を問われることになるから、その要求を無視することはできないことを、優しい、思いやりのある態度で彼に気付かせるべきです。

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。」第一コリント 6 : 19, 20。

「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。人の奴隷となってはいけない。」第一コリント 7:23。

女性の尊厳を保つ

女性にその気があれば、思慮深い感化を通して、また愛情を高めることによって、また聖別と節操の内に、自らの洗練された女性としての尊厳を保つことによって、多くの事を成し遂げることができます。これを実行することで、彼女は夫と自分自身を救うことができます。このように二重の働きを成し遂げ、崇高な任務を果たし、自らの感化によって夫を清い者とする事ができるのです。この微妙で困難な問題を扱うに当たって、道徳的勇氣と不屈の精神を要するのと同様、多くの知恵と忍耐を要します。祈りの内に、力と恩恵を見出すことができます。真摯な愛情が、心を支配する原則とならなければいけません。神への愛と夫への愛情が、行動の唯一の根拠となり得るのです。

女性が、自分の肉体を全面的に支配するのは夫の特権であると考え、自分の思いをすべての点で夫の思いに合わせるように努め、彼と同じ方向に流されていくなら、彼女は自らの個性を明け渡すことになるのです。彼女の独自性〔アイデンティティー〕は失われ、夫の個性の内に埋没してしまいます。彼女はただの、夫が動かし操作するための機械、彼の意志と快樂のための生き物となってしまいます。夫が彼女のために思考し、彼女のために決断し、彼女のために行動するのです。このような受け身の態度を取ることににより、彼女は神を辱めるのです。彼女には神の御前において責任があり、彼女にはその責任を保持する義務があるのです。

妻が自分の体と心を夫の支配に明け渡し、すべての事において彼の意志に盲従し、自らの良心と尊厳、また独自性までも犠牲にすると、夫を高めるために彼女が所有すべき、善のためのすばらしい感化力を発揮する機会を失います。彼女は夫の陰しい性質を和らげ、自らの欲情を治めるよう真剣に努力するよ

うに夫を洗練し、純潔にし、導く方法で彼女の清めの感化を発揮することができたのです。それは、彼らが世にある欲のために滅びることを免れ、共に神の性質にあずかる者となるためなのです。精神を高貴なテーマへと導く影響力は、恵みによって新たにされていない心が生来求める、下品で好色な放縦よりも大きなものとなり得ます。動物的欲情が夫の愛情の原理であり、それが彼の行動を支配しているときに、もしも妻が、夫を喜ばせるために彼の標準まで下がらなければならないと感じるなら、彼女は神の不興を招くことになります。夫に対して、清めの感化を発揮し損ねるからです。抗議の言葉も述べずに、夫の動物的欲情に屈しなければならないと感じるなら、彼女は夫と神に対する義務を理解していないことになります。過剰なセックスは、信心を磨こうという気持ちを効果的にくじき、身体を養うのに必要な物質を脳から吸い取り、活力を最も効果的に奪い取ることでしょう。この自滅という働きにおいて、いかなる女性も夫の手助けをすべきではありません。動物的欲情をほしいままにすればするほど、それは更に強まり、放縦への欲求はますます激しくなります。神を恐れる男女を、義務に目覚めさせなさい。多くの自称キリスト教徒が、この方面で不節制であるために、神経と脳の麻痺に苦しんでいます。善人ぶっている多くの人の骨と髄が蝕まれています。彼らは祈り、涙を流し、高い役職に就いていますが、彼らの汚れた死体が天の都の門をくぐることは決してないでしょう。ああ、神に完全な礼拝を捧げるために、知的また身体的な組織を保つのは、神に対する義務であることを、すべての人に理解させることができたらと、悲嘆にくれるものです。

クリスチャンの妻には、言葉と行為の両方において、夫の動物的欲情を刺激するのを控えさせましょう。多くの方は、この方面で浪費する余裕が全くありません。彼らは既に、若い頃からずっと、動物的欲情を満たすことによって自らの脳を弱め、

活力を奪ってきました。結婚生活においては、克己と節制が標語となるべきです。それらを実践すれば、両親は子供が生まれるときに、道徳的また知的器官が弱くなり、動物欲情が強くなっているというようなことはないでしょう。子供たちの間には、悪習〔性的墮落行為〕が蔓延しています。原因はないのでしょうか。一体誰が、彼らに品性の刻印を押したのでしょうか。

男性または女性の精神は、一瞬にして純粹さと聖潔を失って、邪惡と腐敗そして犯罪へと落ちぶれるわけではありません。人が神に似る者と変わったり、または神のみかたちにかたどられた者たちが野獸のように、あるいはサタンのようになるまで墮落するには、それなりの時間がかかります。私たちは眺めることによって変えられるのです。創造主のみかたちにかたどられた人間は、かつて嫌惡していた罪を快く感じるまでに、自らの心を教育することができます。目を覚まして祈るのをやめるとき、人は心の要塞を守るのをやめ、罪惡に走るのです。精神は墮落します。道徳的また知的能力をとりこにし、より低俗な欲情に従わせるよう精神を教育している間は、それを腐敗から立ち直らせることは不可能なのです。それは、人を洗練する神の恵みの感化に助けられつつ、肉の思いに対抗する不斷の戦いがあります。神の恵みが肉の思いを上の方へ引きつけ、純粹かつ神聖な事柄を瞑想する習慣をつけさせるのです。

多くの子供たちは、道徳的また知的能力が未発達な反面、動物欲情が非常に優位な状態で生まれてきます。これらの子供たちには、道徳的また知的能力を引き出し、強め、伸ばしてあげ、それらの能力に主導権を握らせる必要があります。子供たちが、神の子供としてしつけられていません。彼らの道徳、宗教教育がおろそかにされています。道徳的機能が弱められていく一方で、動物欲情は絶えず強められているのです。

早くも幼年期に、動物的欲情が目覚め始める子供たちがいます。そして年齢をかさねるにつれ、彼らの成長と共にみだらな欲情も成長し、彼らの体力が増すごとに勢力を強めるのです。彼らの精神が休まることはありません。女の子は男の子と交わることを欲し、男の子は女の子と交わることを欲するようになります。彼らの振る舞いは慎みがなく、控え目でもありません。彼らは大胆かつ出しゃばりで、勝手気ままであります。自慰の墮落した習慣が彼らの精神を低下させ、彼らの魂を汚したのです。淫らな思い、小説を読むこと、低俗な書物、また恋愛物語〔ラブ・ストーリー〕は空想を刺激し、彼らの腐敗した精神にぴったり合います。彼らは仕事を好みません。労働に従事させられると疲れを訴えます。腰痛と頭痛があります。ちゃんとした原因はないのでしょうか。彼らが疲れているのは、労働のせいでしょうか？いいえ、違います。にもかかわらず、親たちは彼らの訴えを聞き入れ、労働と責任を免除してあげます。実にこれは、親が子供にしてあげる最悪の事なのです。子供たちの弱められた精神に思うままに接近しようとするサタンへのほとんど唯一の障壁を、親たちは取り壊しているのです。有用な労働は、子供たちを支配しようとするサタンの魔の手から、彼らをおある程度守ってくれるのです。

健康の観点から見て、異性と交わらなくてはいけないとの、流行っているけれども墮落した教えは、その有害な働きを成し遂げました。両親や保護者が、サタンの有する抜け目なさの十分の一でも現すなら、この異性の交わりによる害を減少させることができます。現状では、若者たちの心を惑わす努力にかけてサタンはひじょうな成功を収めており、男女の交わりは、その悪を二十倍にも増やすのです。男子と女子を有用な労働に従事させましょう。彼らが疲れていれば、自分自身の肉体を墮落させる傾向は減少することでしょう。

第3章 女性の慎ましさ

女性はすべての悪の徴候を避けることにおいて、常に注意深いわけではありません。彼女たち全員が、女性が公言しているような信心深さにふさわしく、そのふるまいにおいて慎重なのではありません。彼女たちの言葉は、神の恵みを受けた女性にふさわしく選り抜かれたものではありません。彼女たちは男性になれなれし過ぎます。彼らの回りにまわりつき、彼らにのめりこみ、彼らとの交流を好み、彼らに注目されれば大満足なのです。

信心深いと公言する女性によるしゃれや冗談、笑いがあまりにも多過ぎます。これはまったく下品であり、神の霊を悲しませるのです。これらのふるまいは、真のキリスト者の精錬さに欠けていることを現しているのです。これらの事にふけることは、神にあって魂を強めるどころか、かえって大いなる暗黒をもたらし、純潔で洗練された天の使いたちを追いやってしまいます。そして、これらの悪に魅せられた者たちを低級なレベルに落としてしまうのです。

姉妹方は真の柔和を奨励すべきです。でしゃばり、おしゃべり、また厚かましくあるべきではありません。慎ましく、語るに遅く、礼儀正しくあるべきです。親切で優しく、情け深く寛容で、また謙遜であることは、適切で神に嘉せられることであります。このような立場を占めるならば、男性からの不適当な注目に悩まされることはありません。これらの神を恐れる女性のまわり

に漂う純潔という神聖な雰囲気は、すべての人によって感じられ、それは弁解の余地のないあらゆる身勝手さから彼女たちを守るのです。信心深いことを唱えるある女性たちに、あまりにも多くの不注意かつずさんで下品な態度があり、それがさらなる悪へと導くのです。生活の純潔を強め、神と交わるために魂を高めるような主題について瞑想することに専心している信心深い女性は、公正と高潔さから簡単に道を踏み外すようなことはありません。彼女たちはサタンの詭弁に備えて強化され、彼の誘惑的技巧に抵抗する備えができています。

世の中の流行や目の欲求、肉の欲、虚栄心などは、不幸な人たちが墮落するのに関係があります。生まれながらの心と官能的な願望が大事にされています。肉の欲が彼女たちの心から根絶されるならば、彼女たちはそれほど軟弱ではなくなるのです。もし私たちの姉妹方が、心が純潔になる必要を感じ、不適切な行動へ彼女たちを導く不注意なふるまいによって自らを苦しめることをやめるならば、純潔を汚す危険もないのです。彼女たちは不純な行為をひどく嫌悪するようになり、サタンが選ぶ媒介が誰であろうと、サタンの誘惑によって墮落する者のうちに数えられることはありません。

説教者は神聖で聖なる事柄を取り扱っているかもしれませんが、心が聖いとは限りません。彼は悪事を働き、彼の群れの魂と肉体を汚すために自らをサタンにささげるかもしれません。しかし、神を愛し恐れると称する女性や青年たちの精神が神の霊によって強化され、彼らが思いを純潔にするように自らの精神を訓練し、すべての悪の徴候を避けるよう自らを教育してきたならば、彼らはいかなる不適切な口説きからも守られ、彼らのまわりに蔓延している腐敗から保護されるのです。使徒は自らについてこう書いています。

「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。」第一コリント 9:27。

福音を宣べ伝える牧師が低級な欲情を抑えることができず、使徒の模範に従うことに失敗し、彼の職業と信仰とをはずかしめてしまうとき、姉妹方は、彼らの牧師もやっているからという理由で、その罪と犯罪がもはや罪ではなくなるなど一瞬たりとも考えて、自らを欺くべきではありません。責任ある地位に置かれている人物が罪に慣れ親しむからといって、その罪のやましさを深刻さはいかなる人からも軽く見なされるべきではないのです。罪は、神の言葉が啓示しているとおりに罪深く嫌悪すべきものとして見なされるべきです。罪にふける者たちは、死の牙を持つ毒蛇から逃れるように、純潔で高尚な精神を持つ者から忌み嫌われ、退けられるべきなのです。

姉妹方が高められ、心の純潔を所有するならば、汚れた誘いはたとえそれが牧師からであっても、二度と繰り返されないようなはっきりとした態度ではねつけられることでしょう。彼が牧師であるからという理由で誘惑者の声に耳を傾け、そうやって神の単純で明白な戒めを犯し、自分は罪など犯していないとうぬぼれる人は、精神がよっぽど混乱している証拠です。私たちは、『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない」というヨハネの言葉を持っています。律法は何と言っているのでしょうか。「あなたは姦淫してはならない」であります。神の聖なる律法を守っていると公言し、聖なる事柄に携わっているながら、信頼されている彼の立場を情欲におぼれるために利用しているというその事実こそが、彼の職業は天のように高められていようとも、彼からの不純な誘いはすべて光の天使を装ったサタンの働きであったことを、信心深いと公言する女性に悟らせるべきです。

容易に支配され、みだらな情欲の祭壇に貞節と貞操をささげてしまうような人々の心に、神の言葉が宿っているとは信じられません。

姉妹方、あなた方は悪の徴候さえも避けるべきです。墮落が充満しているこのめまぐるしい時代にあって、しっかりと見張っていないければ安全ではありません。貞操と慎ましさはまれです。高く高尚な告白をしているイエス・キリストの追従者であるあなた方をお願いします。お金で買うことのできない、尊い宝石である慎ましさを大事にしてください。最後に高められ、純潔で罪のない天使たちとの交わりに加わり、罪の痕跡のまったくない雰囲気の中で生きる望みをお持ちでしたら、慎ましさと貞操を大切にしましょう。純潔、聖なる純潔だけが神の日に耐え、大いなる裁きに立ち得るのです。そして清く聖なる天国へ受け入れられるのです。

悪の徴候を避ける

それがどこからやってこようと、罪にふけるように、またあなたの体に不当になれなれしくすることを少しでも許してしまうようにあなたを誘ういかなるほのめかしも、品位ある女らしさに対する最低の侮辱として嫌うべきです。頬へのキスも不適切な時と場所でなされるならば、あなたはサタンの使者を受け入れないように嫌悪感を持つべきです。もしそれが聖なる事柄を扱っている崇高な地位にある人からのものであるならば、その罪は十倍も重いのです。神を恐れる女性や青年は、その恐ろしさに、彼が犯したかもしれない罪からだけでなく、神の僕として人々が尊敬し崇めている人物の偽善と卑劣な行為からも

退くはずで。彼は、その務めにおいては神聖な事柄を扱っておきながら、聖職者らしい外套の下に卑しい心を隠しているのです。このようななれなれしさを恐れなさい。わずかな言い寄りも、みだらな精神と欲望的な目をもつ証拠であることを確信して良いのです。このようなことが少しでも助長されたり、今お話ししたようななれなれしさが大目にみられたりするのであれば、あなたの心は純潔でも貞淑でもなく、あなたにとっては罪と悪事とが魅力的なのです。それを示すのにこれに勝る証拠はありません。

より良いものを唱えている人々—まさかこのような腐敗した罪の危険の中にあるとは思ってもよらないような人々の内にある罪と危険とを見せられたとき、私は、ああ主よ、いったい誰があなたがおいでになるときに立ち得るでしょうかと問うていました。清い手と純潔な心を持つ者だけが、主のご再臨の日に立つことができるのです。

慎ましい態度

私は信心深さを告白している姉妹方に対して、しとやかで、似つかわしく、控え目で、慎ましく、真面目な態度を忘れずにいるようお勧めすることを、主の霊によって促されているように感じます。この墮落した時代に行われている自由気ままな行動は、キリストに従う人々の基準ではありません。このようななれなれしい風潮は、永遠にふさわしいクリスチャンのうちに存在してはならないのです。もしも好色、不潔、姦淫、犯罪、殺人が、真理を知らない人々や神の言葉の原則によって支配されることを拒む人々の今日の状態であるならば、キリストの弟

子であり、神と御使いたちと密接な関係にあると称している人々が、それよりも高潔で優れた道を彼らに示すことはいかに重要でありましょう。彼らの純潔と貞操が野獣のような情欲に支配されている種類の人々のそれと著しい対照を示すことは、どんなに重要でありましょう。

若い姉妹方は、いつになったら上品にふるまうようになるのでしょうか。しかし、私は分かっています。親が子供たちを正しく教育することにおいてもっと注意深くなる必要を感じるまでは、断固とした変化が起こることはないでしょう。彼らは、控え目で慎み深く行動するように子供たちを教えるべきです。有用な役立つ人間となるように、奉仕されるのを待つ側ではなく、他に奉仕する者となるように教育すべきなのです。サタンは青年たちの心を広く支配しています。甘すぎると両親方、あなた方の娘さんたちは、必ずしも克己と自制を教えられているとは限りません。彼女たちは甘やかされ、プライドが助長されています。そして、強情で頑固になり、彼女たちを破滅から救うにはどうしたら良いかとあなた方が途方にくれるまで、やりたい放題にさせられています。サタンは、彼女たちが厚かましく、控え目でもなく、女性の慎ましさに欠けているが故に、未信者の物笑いの的となるように仕向けているのです。

若い少年たちも同様に、好き勝手をするままに放っておかれています。やっと十代になったばかりの子供たちが、彼らと同年代の女の子を家まで送っていき、性交に至っているのです。彼らの両親は、変化を起こし、早熟な子供たちを抑制するために断固とした方法をとりません。それは彼ら自身が放縦の完全な虜となっているため、また子供たちへの誤った愛情のためです。

多くの若い女性にとっては男の子が話題の中心であり、若い

男性にとっては女の子がそうです。心に満ちていることを口が語るのです。彼らはいつも思いを馳せている事柄について語ります。記録天使は、自称クリスチ안의男女が語る言葉を書き留めているのです。神の日にもう一度これらの言葉に直面するとき、彼らはどんなにか困惑し、恥じ入ることでしょう。敬虔ぶった偽善者のような子供たちが大勢います。信仰の告白をする決断をしていない青年たちは、これらの偽善者たちにつまずき、彼らの救いに関心を持った人々による努力に対して心を閉ざしてしまうのです。ああ、父親や母親の義務感を目覚めさせることができたならどんなにか良いでしょう！どうか彼らが、彼らの上に置かれている責任の重さを深く感じるすることができますように。そうすれば彼らは敵の機先を制し、イエスのために尊い勝利を得ることができるかもしれません。親たちはこの事をはっきり理解していません。彼らは自分たちの生涯を吟味し、思いと動機とを調べ、行為において慎重であったかどうかを探るべきです。自分たちの会話と態度の模範ははたして子供たちに真似して欲しいと思うようなものであったかどうか、注意深く観察すべきです。子供たちの前であなた方の言葉と行為に、純潔と高潔さが輝くようにしましょう。

イエス・キリストに従う者が持っているべき、控え目で威厳ある神々しい男らしさを保っていない夫や父親のいる家庭があります。神と天使たちとの前で、二人が活着している限り愛し、敬い、尊敬することを誓った妻に対して、親切で優しく礼儀正しい態度を表すことに欠けています。雇われている若い女性は、愛情のこもった注意深さで彼の髪を整えるのに少々積極的かもしれません。また、彼はかつてのように妻に対する配慮や愛情を表現しないかもしれません。この際サタンが働いていることは間違いありません。雇われているお手伝いさんを尊敬し、親切に配慮を持って彼らを扱いましょう。しかし、それを越えてはなりません。お手伝いさんから馴れ馴れしく言い寄ら

れないような態度をとりましょう。親切な言葉をかけたり、好意的態度を示したければ、あなたの妻に対してであれば常に安全です。それは彼女にとって大きな祝福となり、彼女の心に幸福をもたらし、それはあなたに再び反映して帰ってくるでしょう。妻もまた、夫以外の男性に同情と関心と愛情を注いでいます。それはもしかすると、家族のプライベートな悩みを打ち明けることができるほど心を許せる親戚かもしれません。彼女は、彼との交わりを好んでいることを証明しています。

サタンが真の原因です。彼女がよく警戒し、現時点に留まらないならば、彼は彼女を滅ぼしてしまうでしょう。私の姉妹方、このことに関して注意深すぎるということはありません。もしあなたが優しく愛情たっぷりの言葉や親切な関心を与えることができるのなら、神と御使いたちとの前で、生涯愛し、敬い、尊敬することを誓った相手に与えられるべきです。純潔と神聖さを保つためにある全家族のプライバシーを取り囲む壁が壊されることによって、いったいどれだけの人の人生が辛いものとなっていることでしょうか。第三者が妻の秘密に巻き込まれ、彼女の家族のプライベートな問題が特別な友人に明かされるのです。これは、夫と妻の心を離れさせるためのサタンの計略です。どうか、これがやめますように！世の悩みがどれだけなくなることでしょうか！お互いの欠点を自分自身の心のうちに見ましよう。あなたの悩みを神のみに打ち明けましよう。神は純潔で、苦しみをともなわない正しい助言と、確実な慰めを与えることがおできになるのです。

第4章 破られた律法

恵みと真実とは、謙遜で悔い改めた者に約束されており、罪深く反抗的な者には裁きが待っています。「義と公平はあなたのみくらの基い」です。詩篇 89:14。姦通の悪人たちは、神の怒り、すなわち彼らが当然受けるべき罰から逃れることはできません。人は墮落しました。この墮落から回復され、罪と続けられた犯罪によって失った神のかたちを、キリストを通して取り戻すことは、その人生が長かろうと短かろうと、人の生涯の仕事なのです。アダムによって失われた嗣業を取り戻すために、神は魂と肉体と靈性の徹底的な改変をお求めになります。人に彼自身の真の状態を示すために、主はあわれみをもって光をお送りになります。もし光の中を歩かないのであれば、彼は暗黒を楽しむことを明らかにしているのです。彼はその行為がとがめられないように、光に来ようとしません。

主は、古代イスラエルとこの特別な契約を結ばれました。「それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう。」出エジプト 19:5, 6。主は、この最終時代において、彼の律法を守る人々に仰せられます。「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」「愛

する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。」第一ペテロ 2:9, 11。

姦淫の罪は古代イスラエルにはびこり、注目すべき神の不興の現れを招いたのです。彼らの憎むべき罪のすぐ後には、神の裁きが続きました。幾千もの人が倒れ、彼らの腐った死体は荒野に放置されました。「しかし、彼らの中の大多数は、神のみこころにかなわなかったので、荒野で滅ぼされてしまった。これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためである。だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、『民は座して飲み食いをし、また立って踊り戯れた』と書いてある。また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。不品行をしたため倒された者が、一日に二万三千人もあった。また、ある者たちがしたように、わたしたちは主を試みてはならない。主を試みた者は、へびに殺された。また、ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、『死の使』に滅ぼされた。これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。」第一コリント 10:5 - 12。

神の民は、世の中のすべての人々に勝って心と会話において清く、信心深くあることにおいて模範であるべきです。神は、特別な宝としてお選びになった民が世にある欲のために滅びることを免れ、高められ、洗練され、清められた神の性質にあずかる者となることを要求しておられるのです。罪ととがにふける人の公言することが高尚であれば、それだけ彼らの罪は非常

に重いのです。なぜなら彼らは大きな光を持っており、告白によって、神の律法が心に記され、神から特別に選ばれた民という立場をとっていたからです。彼らは、神の統治の律法に服従することによって、天の神への忠誠を示すのです。彼らは、この地上における神の代表者なのです。彼らのうちにある罪とが、何であっても彼らを神から引き離すのです。そして、神の主張と暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを語り伝えるために「選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民」と神が呼ばれた民を非難する機会を神の聖なる律法の敵に与えたという特別な意味において、彼らは神のみ名を辱めているのです。

第5章 結婚関係

男女は、濃厚で濃く味付けられた食物、特に肉や濃厚なグレービー〔肉汁〕に対する食欲にふけることによって、またお茶やコーヒーなどの刺激物を飲用することによって、不自然な食欲をつくってしまいます。身体は熱っぽくなり、消化器官は傷つけられ、知能は鈍り、卑しい情欲が刺激され、優位を占めるのです。食欲は更に不自然なものとなり、制するのがもっと困難になります。血液循環はかたより、血液は不純になるのです。全身の調子が崩れ、食欲の要求はさらに理性を欠くものとなり、完全に墮落するに至るまで刺激的で有害なものを要求するようになってしまいます。

多くの人の食欲は、有毒で健康を破壊する混合物によって強化されている、むかつくようなタバコやビールをやかましく要求します。多くの人はここで留まりはしません。彼らの低下した食欲は、脳を麻痺させる影響力が更に強い酒を要求するのです。こうして彼らは、食欲が理性を完全に支配するまであらゆる不節制にひたり、創造主のかたちに造られた人間は自らを獣以下にまで低下させるのです。男らしさや栄誉も、同様に食欲の犠牲になっています。知覚を麻痺させるのには時間がかかります。それは徐々にではありますが、確実に行われます。最初に、濃く味付けられた食物を食する欲にふけることによって病的食欲が作り出され、健康と知性が情欲の犠牲となるまでのあらゆる種類の放縦への道を備えるのです。

多くの人は、財産も取得せず、遺産もないのに結婚関係に入ってしまった。彼らは、財産を得るための体力も知力も持ち合わせていませんでした。このような人々が結婚を急ぎ、正しい観念も持たずに責任を負ってしまったのです。彼らは高潔で高貴な感情を持っておらず、夫としてまた父親としての義務や、家族の必要を満たすためにいくらかかるか正しい観念を持っていませんでした。また、彼らは家族を増やすことにおいて、商業取引をするときよりも不注意でした。財産を得る能力のある人が十分養うことができるだけの子供を作るのに対し、商業の才能にひどく欠けており、世の中でうまくやっていくのに最も適しない人が、一般に家の子供だらけにしています。自分の身の回りの世話さえできない人は、子供を持つべきではありません。これらの無計画な人々の大勢の子供たちは、まるで獣のように育つがままに放っておかれるのです。彼らは十分に食べさせられていません。着る物も粗末で、肉体的また知的訓練を受けず、両親にとっても子供たちにとっても、家庭という言葉には何の神聖さありません。

結婚制度は、人の祝福となるために神が考案なさったものですが、一般的にひどい呪いとなってしまうまで悪用されてきました。ほとんどの男女が、結婚関係に入るにあたって解決されるべき疑問は、お互い愛し合っているかどうかということだけかのように行動してきました。しかし、結婚に関する彼らの責任はそれだけではないことを悟るべきです。彼らは、子供たちが肉体的健康と精神的また道徳的力を持つことができるかどうか考慮すべきなのです。しかし、そう簡単には捨てることのできない高い動機と崇高な配慮をもって行動した人はごくわずかでした。彼らには社会的責任があり、彼らの家庭の影響は、(人類の) 進歩か退歩に現れるのです。

不幸な結婚

社会は家族で構成されています。一家の大黒柱は社会を形成する責任を負っているのです。もし、当然なされるべき考慮ぬきに結婚関係に入ることを選ぶ者だけが苦しむのであれば、悪はそれほど大きくなく、彼らの罪も比較的小さかったことでしょう。しかし、不幸な結婚から生じる悲慘は、そのような結合による子供たちによって感じられるのです。彼らは生き地獄を強いられ、何も悪いことをしていないのに両親の軽率な行動の結果に苦しむのです。男女は、結婚関係において衝動や盲目的情欲にかられ、様々な理由から人生は喜ばしいものでも幸福なものでもなく、重荷であるということを知らせるためだけに罪なき子供たちをこの世界に誕生させたりする権利を持っていません。子供たちは一般に、両親が持つ特有の性質を受け継ぐうえ、多くは周りからその欠点を補うような感化を受けることなく大きくなってしまいます。彼らのうち、何と大勢が貧困と汚物の中に群がっていることでしょう。そのような環境と模範の中では、子供たちが大人になったときに何を期待することができるとでしょう。彼らは道徳的価値という尺度において、彼らの両親よりも落ちぶれ、彼らの欠乏はあらゆる点において両親よりもさらに明らかではないでしょうか。こうして、このような階級の欠乏は永久に絶えることがなく、貧困と精神薄弱と劣化をもって子孫をのろうのです。彼らは結婚すべきではありませんでした。少なくとも、彼らの悲慘を共に味わわせ、代々積み重ねられてきた不幸と一緒に彼ら自身の欠陥を伝えるために、罪のない子供をこの世に誕生させるべきではありませんでした。これが人類の退歩の一大要因なのです。

過去の時代の女性たちが、彼女たちの行動によって将来の世代が高められも低められもすることを理解し、常に高貴な配慮をもって行動していたなら、お酒やタバコへの不自然な欲求を

抱いているような男性と人生を共にすることはできないという立場を堅く守ったことでしょう。それらはゆっくりではありますが確実に死をもたらす毒であり、神経系を弱め、頭脳の高尚な能力を低下させるのです。男性がこれらの墮落した習慣に執着し続けるならば、彼らを選ぶこれらの相手を楽しむ独身貴族のままに彼らを放っておくべきでした。女性は、食欲を支配できず、主な喜びが飲食と彼らの動物的情欲を満足させることにあるような男性と運命の結合をしなければならないほど、自分を過小評価すべきではありません。女性はいつも理性の指示に従ってきたわけではありません。彼女たちは時折、盲目的な衝動にかられていたのです。多くの場合、彼女たちは自分たちに負わされている責任を常に認めることをしなかったのです。子供たちに程度の低い道徳や、健康や生命さえも犠牲にしてまで、墮落した食欲を満足させようとする情欲などを刻み込むことのないような関係を築かなければならなかったのです。このようにして未来の世代へ受け継がれていく肉体の健康と道徳的性質に対して、神は彼女たちに極めて大きな責任を問われるでしょう。

人類が退化している原因

放縦な習慣によって自らの身体を墮落させた男女は、彼らの知能をも低下させ、魂の純粋な感覚を破壊してしまったのです。このような人々の多くは結婚し、自分たちの肉体の弱さと腐敗した品行の痕跡を子供たちに伝えるがままになっています。動物的情欲と下品な肉欲が彼らの子孫の目立った特質であり、それは代々受け継がれ、恐ろしいほど人の悲惨を増し、人類の退化を早めています。

病弱になり、そして病気になってしまった男女は、彼らの結婚関係において、利己的に自分の幸福のことしか考えていなかった場合がしばしばあります。子供たちから、体力の減少した肉体と、社会を高めることなく更に低く沈めること以外に何を期待できるかを考え、この事を高尚で崇高な原則という観点から真面目に考えたことがなかったのです。

病弱な男性が、しばしば健康そうな女性の愛情を勝ち取ることがあります。そして愛し合っているという理由で、彼らが結婚するのは彼らの完全な自由であると感じ、彼らの結合によって、病気の夫を持った妻は事実上苦しまなければならないことなど考えもしないのです。多くの場合、病気の夫の健康は改善される一方、妻は夫の病気にあずかってしまうのです。彼は彼女の体力に支えられて生きており、彼女はそのうち健康が損なわれていくのに不満を持つのです。彼は、妻の生命を縮めることによって寿命を延ばしているのです。このような結婚をした人々は、神の栄光のために神から与えられた健康と生命を軽く見なすことにおいて罪を犯しているのです。しかし、このようにして結婚関係に入った者だけが考慮されるべきであれば、罪はそれほど大きくはなかったでしょう。彼らの子供たちは、病気が遺伝することによって無理やり被害者にさせられるのです。このようにして、病気は代々永続させられてきたのです。そして多くの者は、彼らの悪行が確実な結果をもたらしたにもかかわらず、この悲劇の責任をすべて神になすりつけるのです。彼らは社会に衰弱した子孫を産み、病気を遺伝によって伝えることによって人類の苦しみを増やし、人類の退廃に貢献しているのです。

若い人は老いた人と結婚すべきではない

現代において、体力と道徳的価値観の欠如しているもう一つの原因は、年の離れ過ぎた男女が結婚して一緒にいることです。年老いた男性が若い女性と結婚する場合があります。そうすることによって夫の寿命は延びることがありますが、妻は年老いた夫に与えてしまった活力の欠乏を感じなければならないのです。自分よりも随分年上の人をどんなに愛していたとしても、またそのような犠牲を払うことをいとわないと感じたとしても、生命と健康を犠牲にすることはいかなる女性の義務でもありません。彼女は愛情を抑制すべきでした。自分自身の関心よりも高貴な考えの助言があったはずで、子供が生まれたならばどのような状況になるかを考えるべきです。しかし、若い男性がかなり年上の女性と結婚することは更に悪いのです。多くの場合、そのような年の離れた結合による子供たちは、バランスの取れた精神を持っていません。彼らは体力にも欠けています。このような家庭では、様々な異常かつ時には痛みを伴う品性の特質が見受けられます。子供たちはしばしば若くして死に、大人になることができた者も、多くの場合、体力と精神力、及び道徳的価値観が欠乏しています。

父親は、機能が衰えていく中であって、若い家族をきちんと育てる準備はほとんどできていません。これらの子供たちは異常な品性の特質を持っており、それを中和させる感化を常に必要とし、さもないと彼らは確実に滅びてしまうのです。彼らは正しく教育されていません。彼らのしつけは、父親の年齢のために気まぐれで衝動的な種類のものであることがあまりにも多過ぎました。父親は気が変わりやすくなっていました。ある時は甘やかし過ぎるし、また別の時には不当に厳しかったのです。このような家庭の中ではすべてが狂ってしまい、家庭の不幸がひどく増加します。こうしてある階級が、社会の負担とし

て世にのしかかるのです。

頻繁過ぎる出産の悲しい結末

よく考えれば、肉体的及び精神的弱さは遺伝することが分かるはずなのに、子供の数を増やす人々は、人類同朋に対する人の義務を述べている、神の律法の後半六条の原則を犯しているのです。彼らは人類の退歩を拡大させ、社会を更に低下させることによって、隣人を傷つけることに貢献しています。もし神が隣人の権利をこのように見なされるとしたら、更に親密で神聖な関係についてどうでもよいと思われるのでしょうか。一羽のすずめさえ神の許しがなければ地に落ちることがないとすれば、肉体的にも精神的にも病んでこの世に生まれてきて、程度の差こそあれ、生涯苦しんできた子供たちについて神が無関心でおられるのでしょうか。子供たちに強いる苦勞に加えて、かわいそうな群れに貧困以外に財産として分け与えるものが彼らにはありません。彼らは子供たちを教育することができません。また、多くの者はその必要さえ認めません。たとえそのような必要を認めたとしても、彼らにはできません。子供たちを訓練し、指導し、可能な限り彼らが受け継いだ悪い遺伝を減らす時間を見つけることができないのです。親は、子供たちが十分な世話と教育を受けることができると分らないうちに、家族を増やすべきではありません。来る年も来る年も母親の腕に子供を抱かせるのは、彼女へのひどい仕打ちです。それは社交の楽しみを減らし、時には壊してしまい、家庭の不幸を増すのです。それは、子供たちに授けることを親が義務と感じるべき世話と教育と幸福を子供たちから奪ってしまいます。

夫は、大勢の子供たちによって妻の重荷と仕事を増やし、妻の健康と幸福をなおざりにするとき、神の言葉の中に命じられている結婚の契りと義務とに背いているのです。「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。…それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は、いまだかつてひとりもない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。」エペソ 5:25, 28, 29。

私たちは、この神聖な勧告が、自称クリスチャンからさえもほぼ完全に無視されているのを見ます。どこを見渡しても、青白く、病弱で、心労でやつれ衰え、意気消沈し、落胆した女性が見受けられます。彼女たちはたいてい働き過ぎで、生命力は頻繁な出産によって消耗しきっています。世の中は、社会にとって何の価値もない人間の抜け殻で満ちています。多くの者は知性に欠けており、才能を持っている者も有益な目的のためにそれを用いていません。それらは養われておらず、一つの大きな原因は、子供たちがよく訓練されることができるよう早く増やされ、人でなしになるがままに放っておかれてきたからなのです。

子供の世話

現代の子供たちは、健康の法則を犯した報いに両親と共に事実上苦しんでいます。幼少の頃から一般に続けられてきた行為は、彼らの生命の法則への絶え間ない反対です。彼らは生まれる前から、両親の悪習慣によって引き起こされた病気と障害というみじめな遺伝を受けることを強いられました。それは多かれ少なかれ、生涯を通じて彼らに影響を及ぼすのです。この悪

い状態は、子供たちの幼児期の肉体的訓練において、親たちが誤った方針に従い続けることによって、あらゆる方面において更に悪化します。

親は子供たちの体の健康について、驚くほどの無知と無関心と無頓着さを表しています。それは時折、虐待された幼児に残されたわずかな生命力を破壊し、早く墓に送ることになってしまふのです。あなたはしばしば、親たちが彼らの腕から子供たちを奪い去った神の摂理を嘆いているのを聞くことでしょう。私たちの天の父は知恵あるお方なので間違ふ余地などありません。また、善であられるので、私たちを悪くあしらわれることありません。彼は、ご自分がお造りになった者たちが苦しむのをながめて喜ばれることはありません。親たちが健康の法則に従って行動しなかったために、幾千もの人々が一生台無しにされてしまいました。彼らは適切な判断の命ずるところに従って子供たちの将来の幸福を常に念頭に置く代わりに、衝動的に行動してきたのです。

多くの子供たちは、善良な農夫が物の言えない動物に対してする世話に値するものさえ親から受けずに大きくなっています。父親たちは特に、妻と子供たちに対して牛に対するよりも低い関心を示すことにおいて罪を犯していることがあります。あわれみ深い農夫は、家畜を管理する最善の方法に時間をかけ、特別の手間をかけ、大切な彼の馬が過剰に働かされたり食べさせられたりしないように、また興奮しているときに食べさせないように細心の注意を払います。さもなければ馬はだめになってしまうのです。彼は怠慢や遺棄や不当な扱いのために彼の家畜がけがをすることのないように、また増えていく家畜の子供の価値が下がらないように、彼らの世話をする時間をさきます。彼は家畜の食事時間を規則正しく守り、彼らを傷つけることなく働かせることができる仕事の量を知るでしょう。彼はこれを

成し遂げるために、最も健康的な食物だけを、適量、決まった時間に与えることでしょう。このようにして理性の指示に従うことによって、農夫は家畜の体力を保存することに成功するのです。すべての父親の妻と子供たちに対する関心が、彼の牛に示されている関心に相当するならば、彼らの生命は物の言えない動物よりも尊いのですから、すべての家庭で完全な改革が起こり、人類の不幸はずっと少なくなることでしょう。

健康的食事は不可欠

親は、自らと子供たちのために、最も健康的な食物を供給することに細心の注意を払うべきです。また、どんな場合でも、健康に導くどころかかえって身体を熱っぽくし、消化器官の調子を狂わすと理性が告げるような食物を子供たちに出すべきではありません。親たちは子供たちに関して、家畜の場合のように原因から結果を追求することをしません。過労、また激しい運動後や疲労しきっているときや興奮しているときに食べることは、口のきけない動物の健康を害するのと同じように人間の健康を害し、動物の場合と同じように虚弱体質の基礎を築くのだとは考えないのです。

父親は多くの場合、妊娠している彼の牛のために、妻が同様の状態にある時よりも理性を働かせ、彼女に対するよりも深い関心を示します。母親は、出産前の多くの場合、家族と訪問客の誤った味覚に合う様々な不健康な料理を作って彼女の血液を熱くし、朝から晩まで働くことが容認されています。彼女の体力は優しく大切に扱われるべきです。健康的な食物を準備するのには、半分くらいの費用と労力しかかかりませんし、ずっと

栄養に富んでいます。

妊娠中の母親が、彼女の体力以上の労働をすることがしばしば容認されています。彼女の苦勞と心配事が減らされることはほとんどなく、他のどんな時よりも休息の時でなくてはならない期間が、疲勞と悲しみと憂鬱な時となっているのです。激しく活動し過ぎることによって、本来胎児に供給しているはずの栄養を彼女は胎児から奪うのです。また、血液を熱くすることによって、胎児に悪質の栄養を授けているのです。胎児は活力を奪われ、体力と精神力とを奪われるのです。父親は母親を幸福にする方法を学ぶべきです。曇った表情で帰宅することを自らに許してはなりません。仕事で途方に暮れていたとしても、本当に妻に相談する必要がある場合を除いて、そのようなことで彼女を煩わせるべきではありません。彼女には彼女自身の負うべき心配事や試練があるのですから、不必要な苦勞はさせないよう親切にしてあげるべきです。

親の義務

母親はしばしば、父親の冷たい沈黙を経験します。すべてが彼の望み通りにいかないと、彼は妻であり母親である彼女を責めるのです。彼は、彼女の心配事や日々の試練には無関心に見えます。こうする男性は、彼ら自身の利益と幸福にまったく反することをしているのです。母親は失望し、希望と快活さは彼女から消え去ってしまいます。彼女は、やらなくてはならないと分かっているので、仕事を機械的にこなしますが、それはやがて肉体と精神の健康を衰弱させることになるのです。彼らにできた子供たちは様々な病気で苦しみ、神は両親に責任を厳し

く問われます。なぜなら、まだ生まれていない子供たちに病気を押しつけたのは彼らの悪習慣であり、そのもとで彼らは生涯苦しむことを強えられるからです。ある子供は、重度障害のために短期間しか生きることができません。母親は心配そうに子供の生命を見守り、死んでそのまぶたを閉じさせなければならぬとき、悲しみで押しつぶされます。そして彼女はしばしば、実際は両親が自分の子供の殺人者であるのに、この不幸のすべてを作り出したのは神であると見なすのです。

子供が生まれる前の妻への待遇は、その期間の母親の気質に相当影響し、子供が生まれた後に発達させる品性と大いに関係があることを、父親は肝に銘じておくべきです。多くの父親は財産を早く手に入れることを切望し、もっと考慮すべき事柄が犠牲になってきました。ある人々は、母親と子供たちに関して犯罪的に怠慢で、両者の生命は富を増やす強い欲望の犠牲になっていることが多いのです。多くの者は、彼らの悪行の重い罰にただちに苦しむわけではないので、彼らの振る舞いの結果に対して無感覚でいます。妻の状態は奴隷と何ら変わらない場合があります。ある時には彼女も、上流の生活をするための富を得るために体力を浪費することにおいて、夫と同罪なのです。このような人々が子供を持つことは犯罪です。なぜなら、彼らの子供たちは肉体的にも精神的にも道徳的にも欠けていることが多く、両親に似た惨めで利己的な特徴を帯び、彼らの下劣さによって世は呪われるからです。

すべてのことにおいて節制する

労働に関して理性を働かせて行動することは男女の義務です。

彼らは不必要にエネルギーを消耗させるべきではありません。そうすることによって自分たちが苦しむだけでなく、彼らの誤りによって、彼らの愛する者たちにも心配や疲労や苦痛をもたらすからです。何のためにそんなに働かなければならないのでしょうか。飲食における不節制と富への欲望が、仕事における不節制に導いたのです。食欲がコントロールされ、健康的な食物だけが取り入れられるならば、出費はかなり減り、男も女も彼らの体力以上の労働を強いられ、健康の法則を犯すようなこともなくなります。財産を蓄えたいという男女の欲望は、彼らが目的を達成する努力において神を忘れ、彼らの同胞に対する義務を指示しているエホバの戒めの最後の六条を忘れ、神の所有である彼らの肉体と精神をもって神に栄光を帰すことが不可能な状態に自分たちを置くのでなければ、罪ではありません。もしも、裕福になるのを急ぐあまり、活力に過度の負担をかけて生命の法則を犯すならば、彼らは神に完全な奉仕をささげることができない状態に自分たちを置くのであり、罪の進路をたどっているのです。このようにして手に入れた財産には、計り知れない犠牲が払われたことになるのです。

重労働と心配事は、しばしば父親を苛立ちやすく、せっかちで厳しい要求をするようにさせます。彼は、妻が疲れた顔をしているのにも気がつきません。彼女は、彼がより優れた体力で一生懸命働いたように、彼女の弱い体力で同様に働いていたのです。彼は商売にあせることを自ら許し、裕福になりたいという熱望によって、家族に対する彼の義務という観念を大部分失い、妻の耐久力を正しく判断しないのです。彼は、しばしば農場の規模を大きくし、人を雇う必要を増やし、それは必然的に家事を増やすことになります。妻は、自分の体力以上に働き過ぎていることを毎日実感しますが、それでも仕事を成し遂げなければならないと思い、働き続けます。彼女は常に未来に向かって手を伸ばし、未来の資源から体力を引き出し、借りた体力で

生きているので、彼女がその力を必要とするときには思うようにならず、生命を失わなかったとしても、彼女の体質は回復する余地のないほど破壊されてしまっているのです。

母親の務めは最小限に

もし父親が肉体の法則に精通するなら、彼の義務と責任への理解も増すことでしょう。彼は、子供たちに残す財産を得ようとして、子供たちが生まれる前の母親に彼女の体力以上の労を強いて多くの重荷を負わせることによって、子供たちを殺しかけていたことに気がつくでしょう。彼らは、苦勞の多い生活を通じてこれらの子供たちを育て、時には早くに彼らを墓に横たわらせることもあります。彼らの悪行が確かな結果を招いたことには気がつきもしないのです。子供たちの母親を疲れる仕事と精神的苦悩から守ってやり、子供たちに良い体質を受け継がせてあげられたら、そして父親の財産を当てにするのではなく、自分たちのエネルギー溢れる体力に頼って、自分たちで人生の戦いを経験する機会を彼らにも与えることができたなら、どんなにかよかったことでしょう。このようにして得られた経験は、母親と子供たちの健康を犠牲にして購入された家や土地よりも、彼らにとってははるかに価値があるのです。

ある男性たちは、不機嫌で利己的で厳格で横柄であることがまったく当たり前であるかのようです。彼らは自制を学んだことがなく、不合理な感情を抑制することもせず、結果はなるようになれといった感じです。このような人は、妻は病弱で元気がなく、子供たちは彼ら自身の不愉快な品性の特徴を帯びているのを見ることによって、その報いを受けるでしょう。

お互いの感情を傷つけるのを避けるよう気を配ることは、結婚しているすべての男女の義務です。苛立ちと激怒を表すすべての眼差しや表情を抑制すべきです。大小を問わずお互いの幸福を考慮し、お互いの親切な行為や小さな好意に答えることにおいて、優しい思いやりを示すべきです。これらの小さな事柄は軽視されるべきではありません。それは、体力を保つためには食物が必要なように、夫婦の幸福のためには重要なことだからです。父親は、妻が彼の大きな愛情に頼るよう励ますべきです。彼女が人生の幸福をゆだねた相手である彼から語られる親切で快活で励みになる言葉は、彼女にとってどんな薬よりも有益です。そして、そのような同情的言葉が、妻であり母親である彼女の心にもたらす快活な光は、その元気づける輝きを父親に反映するのです。

夫は、妻が墮落した味覚に合うように食物を料理するのに骨折って、心配にやつれ、衰弱し、早く老けていくのをたびたび目にします。彼は食欲を楽しませ、調理するのにより多くの時間と労力を要し、食べる者を神経質で苛立ちやすくする傾向があるようなものを食べたり飲んだりします。妻は頭痛がしないことはまれで、子供たちも健康に悪い食物を食べる影響に苦しみます。そして、両親と子供たちの間には、忍耐と愛情の大きな欠乏があるのです。強い食欲のために健康が犠牲にされたせいで、皆が一緒に苦しむのです。子供たちは生まれる前に、病気と不健康な食欲とを受け継いでおり、母親が表す苛立ち、神経質、落胆などは、彼女の子供たちの品性に傷跡を残します。

過去の時代において、もし母親が彼女たちの生命の法則についての知識を持っていたなら、彼女たちの生まれつきの体力は、道徳的そして知的能力の状態と同様に、彼女たちの子供に大きな割合であらわされることを悟ったことでしょう。多くの事が含まれているこの主題に関する彼らの無知は犯罪です。多くの

女性は、決して母親になるべきではありませんでした。彼女たちの血液は、両親から受け継いだるいれき（※）で満ちていて、彼女たちの粗末な生活様式によってそれは増加しています。知能は低下させられ、動物的食欲の奴隷となっています。このような両親のもとに生まれた子供たちはあわれな被害者であり、少しも社会の役に立たないのです。

過労の母親は人類の墮落を引き起こす

違った状況であれば、道德の標準を上げることにおいて、社会にとって有益な感化を与えたであろう妻であり母親である女性たちが、健康を破壊する流行の調理法と頻繁過ぎる出産のために多くの家事に追われているが故に、社会の損失となっています。これは、何十年も前から現在に至るまでの墮落の最大要因の一つです。彼女は不必要な苦しみを強いられてきて、その体質は弱り、生命の供給源からあまりにも注ぎ出されているために知性も弱められています。彼女の子供たちは彼女の弱さのために苦しみ、こうして彼らを教育できない母親の無能さによって、何の益にもならない種類の人間が社会の負担になるのです。

これらの母親たちが子供を産む回数を少なくしていたなら、そして道德と知性が肉欲を支配することができるよう、肉体の健康と精神力を保つような食物で生きていくことに注意していたなら、彼女たちは子供たちを社会の宝となるよう役立つ人間に教育することができたのです。

過去の世代の親たちが、堅固な目的を持って肉体を理性に仕えるものとして保ち、知性が動物的な情欲の奴隷となることを許さなかったならば、現代この地球はまったく異なった状態に

あることでしょう。出産前の母親が、彼女は未来の世代に品性の特徴を与えているのだということを理解し常に自制力を持つならば、今日の社会の状態は、これほどまでに品性において後退してはいなかったでしょう。

満足すること

母親になろうとしている女性はすべて、状況がどうあろうとも、常に幸福で楽しく満たされた気持ちでいるように努めるべきです。彼女のすべての努力は、彼女の子供たちの道徳的及び肉体的性質において十倍に報われるからです。それだけではありません。陽気な考え方を習慣づけることによって精神状態を幸福なものに助長し、彼女自身の明るい精神が、彼女の家族や彼女が交わる人々に反映されます。そして、彼女の健康も大いに増進するでしょう。生命の泉には力が与えられ、血液も、彼女が落胆や陰気に身を任せたときのようにのろのろと流れることはなくなります。精神と道徳の健康は、朗らかな心によって活性化させられます。意志の力は心の印象に抵抗することができます。そして、神経をみごとになだめるのです。両親から受け継ぐべき活力を奪われている子供たちには、細心の注意を払わなければなりません。生命の法則によく注意することによって、はるかに良い状態を作り出すことができるのです。

乳児が母親から栄養をもらう時期は極めて重要です。多くの母親は授乳期間中に働き過ぎたり、料理をする際に血液を興奮させるがままに放っておかれます。それは乳児にひどく影響するのですが、それは母親の母乳からの熱した栄養を受けたからだけではなく、彼女の不健康な食事によってその血液も毒され、

彼女の全身を熱くし、このようにして乳児の食物に影響したのです。乳児はまた、母親の精神状態によっても影響を受けます。彼女が不愉快で興奮しやすく、短気で、感情を爆発させるならば、乳児が彼女から受ける栄養は熱っぽく、しばしばせんとうやけいれんを生じさせ、ある時には発作やかんしゃくを引き起こすのです。

子供の品性も、母親から受ける栄養の質によって多少にかかわらず影響を受けますから、母親が授乳期間に幸福な精神状態を保ち、感情を完全に抑制することはどんなにか重要でしょう。そうすれば、子供の食物が損なわれることはありません。母親が子供を扱うときの冷静で落ち着いた態度は、子供の精神を形成するのに大いに関係があるのです。子供が神経質でいらいらしやすい場合にも、母親の注意深いゆったりとした物腰は心をなだめて正しくする感化を及ぼし、子供の健康は大いに改善され得るのです。

過食によって苦しむ幼児

乳児は不適切な扱いによって非常に虐待されています。一般に、彼らが不機嫌であれば静かにさせるためにおっぱいを飲ませますが、多くの場合、彼らが不機嫌である本当の原因は、母親の悪習慣によって害された母乳を飲まされ過ぎていることによるのです。彼らの胃にはすでに負担がかかりすぎているので、食物を与え過ぎることは事態を悪化させるだけなのです。

子供たちは一般に生まれた時から食欲を欲しいままにして育てられており、食べるために生きているのだと教えられています。母親は、幼児期の子供たちの品性形成に貢献しています。

彼女は彼らに食欲を抑制することを教えることもできますし、反対に食欲を欲しいままにし、暴食家になるよう教えることもできるのです。母親はよく決まっただけの分をやり遂げるために一日の計画を立てますが、子供たちが彼女の邪魔をすると、彼らの小さな悲しみを和らげ、慰めてあげるために時間をさく代わりに、彼らを黙らせるために食べ物を与えられます。それはとりあえず目的を果たすかもしれませんが、結局は事態を悪化させることになってしまうのです。子供たちの胃は、最も不必要なときに食物で圧迫されていたのです。必要だったのは、母親の少しの時間と注目、それだけだったのです。しかし彼女は、子供たちを楽しませるためにささげるには、彼女の時間は貴重過ぎると見なしたのでした。おそらく、家が訪問者の賞賛を得るように趣味よく整えられていることや流行のスタイルに料理をすることの方が、子供たちの幸福と健康よりも彼女にとって大切なのでしょう。

消化不良とその悪の結果

食えることと働くことにおいて不節制であることは、両親を衰弱させ、しばしば神経質にし、子供たちに対する彼らの義務を正しく遂行するのに不適格にしてしまいます。一日三回、親と子供たちは流行の食物であふれんばかりの食卓を囲みます。それぞれの品の真価が計られなければなりません。母親は、興奮し力尽きるまで働き、しばらく休むまでは最も単純な食物さえ摂れるような状態ではないかもしれません。彼女が労して作った料理は、どんな場合にも彼女には適さないのですが、特に血液が熱くなり、体が消耗しきっているときには消化器官に無理をさせることになります。このようにして生命の法則を犯し続

けてきた人々は、彼らの人生においていつかはその報いを受けなければならないのです。

世の中に悪い結果をともなう消化不良を訴える神経質な女性が大勢いるのには、十分な理由があります。原因があって、それに結果が続いているのです。不節制な人が忍耐強くあることは不可能です。彼らはまず悪習慣を正し、健康的に生きることを学ばなくてははいけません。そうすれば、忍耐することも彼らにとって難しいことではなくなるでしょう。多くの人は、精神と肉体との関係を理解していません。不適切な食物によって身体組織が乱されると、脳と神経に影響し、このような人は些細なことでいらいらしてしまうのです。小さな困難も、彼らにとっては山のように大きな悩みです。このような状態にある人は、子供を正しく訓練するのにふさわしくありません。彼らの生活には極端が目立つようになります。ある時には甘やかし、また別の時には注目するに値しないような些細なことにも厳しかったりするのです。

母親はよく子供たちを自分の前から追い払います。彼らが陽気にはしゃぐことによって生じる騒々しさに耐えられないと思うからです。しかし、母親が折にかなって認めてあげたり注意してあげたりしないと、しばしば仲たがいが起こってしまいます。母親の言葉がすべてを元通りにするです。彼らはそのうちうんざりして、欲求も変わり、娯楽を求めて街頭にたむろするようになります。そして、純潔で無邪気な子供たちは悪い仲間誘われていき、悪い会話が彼らの耳にささやかれ、彼らのよい慣習は崩されてしまうのです。母親はしばしば、子供たちの非行の発露に痛々しく気付かされるまで、彼らの関心事に無頓着でいることがあります。悪の種が若い心に蒔かれ、豊かな実りを約束しています。それなのに彼女は、子供たちがなぜこんなに悪いことばかりするのか不思議でならないのです。親は、

幼い心に高潔で正しい原則を植えつけるために、正しい時期に始めるべきです。母親はできるだけ子供たちと一緒にいて、彼らの心に尊い種を蒔くべきなのです。

母親の時間は、特別な意味において子供たちのものです。彼らは、他の誰も奪うことのできない彼女の時間に対して権利を持っています。多くの場合、時間がかかりすぎるという理由で、母親は子供たちをしつけることを怠ってしまいました。彼女たちはその時間を料理や自分や子供たちの服を流行に合うように整えて、若い心にプライドを育てるために費やさなければいけないと思っているのです。落ち着かない子供たちを静かにさせておくために、ケーキとか甘いものをいつでも構わず与えるので、彼らの胃は不規則に有害なものでぎゅうぎゅう詰めになっています。彼らの青白い顔は、かわいそうな子供たちの残っている生命力を破壊するためにできる限りのことを母親がしていることを証明しています。消化器官は常に酷使され、休む暇もありません。肝臓は活動しなくなり、血液は不純になります。子供たちは病弱になり、苛立ちやすくなります。なぜなら彼らは不節制の被害者であり、彼らが忍耐を働かせることは不可能だからです。

親たちは、なぜ子供たちは以前よりもこんなに抑制しにくくなってしまったのかと不思議がります。ほとんどの場合、彼ら自身の誤った管理がそうさせたのです。彼らが食卓に載せ、子供たちに食べるよう勧める食物の質は、常に彼らの動物的感情を刺激し、彼らの道徳的及び知的能力を弱めてしまっています。非常に多くの子供たちが、彼らの幼少時代に両親がとった間違った行動によって、若くしてみじめな胃弱にさせられています。親たちは、子供たちをそのように扱ってきたことに対して神に申し開きをしなければなりません。

多くの親は、子供たちに自制の訓練を施しません。彼らは食欲を欲しいままにし、子供たちが自分たちの欲求に従って食べたり飲んだりする習慣を幼少時代に形作ることを許してしまうのです。青年時代における一般的な習慣においても同様です。彼らの欲求は抑制されたことがなく、成長するにつれて不節制の一般的な習慣に溺れるだけでなく、更なる放縦の深みにはまるようになるのです。彼らは自ら悪い友人たちを選ぶようになります。彼らは両親から抑制されることに我慢できません。彼らは墮落した激情に身を委ね、純潔や貞操をばかにするようになります。これがまさしく今日の青年たちの中に純潔と道徳的価値観が欠けており、男女が神の律法に服従する責任を感じない大きな理由なのです。ある親たちは自制できていません。彼らは自分たちの歪んだ食欲や激しい気性を抑制しません。ですから、彼らは自分の子供たちに食欲を否定することを教育したり、自制を教えたりすることができないのです。

教育における誤り

子供が生まれて最初の六、七年は、知的訓練よりもむしろ身体を鍛えることに特別の注意が払われるべきです。この期間が過ぎた後、体がしっかりしていれば、両面の教育に注意が向けられなければなりません。幼児期というのは六、七歳までのことを言います。この期間、子供たちは何の心配もせずに、小さな小羊のように家の周りや庭をかけめぐり、元気にはねまわるがままにさせておくべきです。

両親、特に母親は、そのような幼い心の唯一の教師であるべきです。本から教育すべきではありません。子供たちは通常、

自然の事柄について知りたがります。彼らは見聞きするものに関して尋ねますから、両親は彼らを教え、忍耐強くこれらの小さな質問に答えてあげる機会を活用しなければなりません。このようにして、彼らは敵の優位に立つことができ、子供たちの心に悪が根を張る余地を残さないように良い種を蒔くことによって、彼らの心を強化することができます。母親の愛情深い教えこそ、未熟な子供たちが品性を形成するのに必要としているもののなです。

子供の最初の教訓

子供たちが最初に学ぶべき大切な教訓は、食欲をきちんと制することです。子供たちに食物を与えることによって、食べることが人生の問題を解決するのだと思わせてしまう変わりに、彼らの心を和らげ、気を転じることによって彼らの必要に答えることは母親の義務です。

もし親が健康的に生活し、単純な食事で満足したならば、随分と節約になったことでしょう。父親が、家族の必要を満たすために、自分の体力以上の労働を強いられることもありませんでした。単純で栄養に富んだ食事は、神経系や動物的情欲を過度に興奮させ、不機嫌や苛立ちを生じさせるようなこともなかったでしょう。単純な食物だけを摂取していたならば、頭脳は明晰で、神経は安定し、胃は健康的になり、全身はきれいになって、食欲を失うこともなかったでしょう。また、現代の人々は今よりもはるかによい状態にあったはずですが、しかし、こうなってしまった今でも、私たちの状態を改善するためにできることがあります。すべての事において節制することが必要です。節度ある父親は、食卓に多くの料理が並べられていないからといって文句を言うことはありません。健康的な生活は、家庭の状態

をあらゆる面において改善し、母親が子供たちに専念する時間を与えてくれます。現世と来世において役立つ者となるように子供たちを訓練するには、どんな方法が最善かというのが、両親の主な研究の対象となります。彼らは、子供たちが刺繍や飾りのついていない小ざれいで単純かつ心地良い服を着ているのを見て満足します。彼らは、子供たちが神の御目に高価である柔和でしとやかな精神という内なる飾りを所有するのを見るために、勤勉に働くことでしょう。

家族の祭壇

クリスチャンである父親は、仕事に行く前に家族を集め、神の前に頭を垂れて大牧者の御手に彼らを委ねるでしょう。そうして彼は、妻と子供たちからの愛情と祝福を携えて働きに出かけ、働いている間も気持ちよく過ごすことができるのです。そして、責任感に目覚めた母親は、父親の留守中に彼女に託された子供たちに対する責任を認識します。彼女は、夫と子供たちのために生きているのだということを実感します。子供たちを正しく訓練し、節制と自制の習慣を教え、神に対する彼らの義務を教えることによって、彼女は彼らがこの世において役立つ人間となり、社会の道德水準を高め、神の律法を敬いそれに従うようにしているのです。敬神深い母親は根気よく忍耐をもって、教訓に教訓、規則に規則を与えて子供たちを教えます。荒っぽい強制的なやり方ではなく、愛と優しさをもって教えることによって、彼女は子供たちの愛情を勝ち取ります。彼らは彼女の愛の教訓に注意を払い、彼女の教えに喜んで耳を傾けるでしょう。

子供たちの楽しみ

子供たちのたてる騒音に悩まされたり、彼らが数々の注目を要求するのにいらいらしないようにと彼らを自分のところから追い払ってしまうのではなく、彼らの活発で落ち着かない心を簡単で楽しい仕事という楽しみをもって和らげ、気分転換させてあげることに彼女の時間を費やすことほど有効な用い方はないと感じることでしょう。子供たちを楽しませるために費やした母親の時間と努力とは、十分に報われることでしょう。

幼い子供たちは交わりが大好きです。彼らが一人でいることを楽しめるのはまれです。母親は、ほとんどの場合に家で子供たちがいるべき場所は、彼女がいる部屋だと感じるべきです。彼女は彼らをおおまかに監督し、彼らのうちに小さな揉め事が生じるときに仲直りさせたり、悪習慣や利己的もしくは感情的な表現を正したりすることができ、彼らの心を正しい方向に向けることができますのです。子供たちは、自分たちが楽しければ、母親も喜んでくれるだろうと考えます。また、小さな困惑について母親に助言を求めるのは、彼らにとってごく自然なことなのです。母親はその事を無関心に扱ったり、そのような小さな事で煩わされるのを拒むことによって、敏感な子供心を傷つけてはなりません。母親にとっては小さなことでも、彼らにとっては大きいのです。正しい時に与えられる指示や注意は、しばしば大きな価値があることを証明します。母親からの、それでいいのよという眼差しや、励ましや賞賛の言葉は、しばしば幼い心を一日中明るくするのです。

幼児期に子供たちが母親から受けるべき最初の教育は、彼らの身体の健康に関するものでなければなりません。彼らは、単純で健康状態を最善に保つ質の食物だけを与えられるべきであり、それも規則正しく、一日に三回より多く摂るべきではありません。

ません。二食は三食よりも良いのです。子供たちが正しくしつけられるならば、泣いたりぐずったりしても何ももらえないことをやがて学習するでしょう。思慮深い母親は、子供たちの訓練において、単に自分自身がその場をしのぐことではなく、彼らの将来の幸福を考えて行動します。この目的のために、彼女は子供たちに、食欲を抑制することや自制の重要な教訓を教えます。それは、彼らが健康のことを考えて飲食し、服を着るようになるためです。

神を愛し、神に従ってよくしつけられた家庭は、明るく幸福です。父親は、いつもの仕事の問題を家に持ち帰ることはありません。家庭と家族の絆は神聖なものなので、仕事の不満を持ち込んで損なってはならないと、彼は感じているのです。家を出たとき、彼は救い主と宗教を置き去りにしたではありませんでした。両方とも彼に付き添っていたのです。家庭での親切的な感化、妻の祝福、子供たちの愛情が彼の重荷を軽くし、彼は平安な心で帰ってきます。待っていた妻や子供たちの明るく元気づける言葉が、彼を喜び迎えます。彼自身と愛する家族を一日中守ってくださった神に感謝をささげるために、祈りの祭壇で家族と共に頭を垂れるとき、神の御使いたちが部屋の中を舞い、神を恐れる両親の熱い祈りを香り高い煙のように天へ運びます。そして、その祈りは祝福となって戻ってきて、答えられるのです。

親は、胃を傷つけてまで味覚を喜ばせることは罪であることを、子供たちに印象づけなければなりません。生命の法則を犯すことによって、彼らは造り主に対して罪を犯すのだということを、彼らの心に焼きつけなければなりません。このように教育された子供たちを抑制するのは困難ではありません。彼らはいらいらすることもなく、機嫌がころころ変わるようなことはありません。また、人生を楽しみやすい状態にあります。この

ような子供たちは、自分たちの道徳的義務をもっと容易にかつ明確に理解するでしょう。両親に意思と欲求に従わせることを教えられてきた子供たちは、自分たちの意思をもっと容易に快く神に従わせ、キリストの霊によって支配されるために服従させます。クリスチャンであることを公言している多くの人が数多くの試練を経験し、教会の負担となっているのは、彼らが子供時代に正しく訓練されず、大部分が自分で品性を形成するがままに放っておかれたからなのです。彼らの悪習慣や、奇妙で不愉快な傾向は矯正されませんでした。彼らは、意思を両親に従わせることを教えられませんでした。彼らの宗教経験のすべてが、幼少時代に受けた訓練に影響されるのです。彼らは、あの時に抑制されていませんでした。彼らはしつけられないまま成長してしまったので、今となっては彼らが宗教経験において、御言葉の中で教えられている純潔な教えに従うことは困難なのです。両親は、子供たちの宗教経験に関して、彼らを教育する責任が負わされていることを認識すべきです。

結婚は神の教えによって守られるべき神の神聖な制度であると見なす者は、理性の指示によって制御されます。彼らは、結婚が授けるすべての特権の結果を注意深く考慮するでしょう。このような人は、子供たちは神から預かった尊い宝石であることを意識し、彼らの輝きが現れるように、訓練によって彼らのあらげずりな面を取り除きます。彼らは最も厳粛な義務のもとにあって、子供たちが満足のいく人生を送り、彼らの光で他を祝福するように彼らの品性を形成すべきことを認めます。世の中は、彼らがいたために良くなるでしょうし、最後にはより高い生き方、より良い世界にふさわしい者となり、神と小羊との御前で永遠に輝くことでしょう。

もっと詳しく聖書を学びたい方のために...



“スタディバイブル”

口語訳
解説付き聖書
各 10,000 円

標準型（幅 153mm、高さ 220mm、厚さ 38mm）
余白付大型（幅 165mm、高さ 235mm、厚さ 38mm）

難漢字ふりがな付き。上質の合成皮革。E. G. ホワイトの注解、脚注、引照付き、地図、チャート、金のりんご、聖書語句索引、口語訳聖書の標準ページを左右余白に付記。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980) **56-2783** FAX(0980) **56-2881**

contact@srministry.com www.srministry.com